

SAS[®] Deployment Wizard 9.3、 SAS[®] Deployment Manager 9.3 ユーザーガイド



著作権情報

このマニュアルの正確な書籍情報は、以下のとおりです。

SAS® Deployment Wizard and SAS® Deployment Manager 9.3: User's Guide

Copyright® 2019, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA.

本書は、発行元であるSAS Institute, Inc.の事前の書面による承諾なく、この出版物の全部あるいは一部を、電子データ、印刷、コピー、その他のいかなる形態または方法によって、複製、転送、または検索システムに保存することは禁止されています。これらの説明書は著作権により保護されています。

著作権保護を受ける本書の使用の範囲は制限されています。許される使用の範囲とは、使用者のシステムに保存して端末に表示すること、本書が提供された目的である、SASプログラミングおよびライセンスプログラムのインストール・サポートの責任者が使用するために、必要な部数だけコピーすること、および特定のインストール要件を満たすように内容を修正することを指します。本書の全部あるいは一部を印刷する場合、またはディスプレイ媒体に表示する場合は、SAS Instituteの著作権表示を明記する必要があります。上記の条件以外で本書を複製または配布することは一切禁止されています。

アメリカ合衆国政府の制約された権限についての通知

アメリカ合衆国政府による、本ソフトウェアおよび関連するドキュメントの使用、複製、公開は、「FAR52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights」（1987年6月）に定められた制限の対象となります。

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

SAS®およびSAS Instituteのプロダクト名またはサービス名は、米国およびその他の国におけるSAS Institute Inc.の登録商標または商標です。

®は米国で登録されていることを示します。

その他、記載されている会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

目次

第1章 SAS Deployment Wizard、SAS Deployment Manager、およびユーザーガイドの概要	1
SAS Deployment Wizardについて.....	1
SAS Deployment Managerについて.....	1
ユーザーガイドの使用方法.....	1
用語の定義.....	1
Software Orderメール (Software Order E-mail : SOE)	1
SASソフトウェアデポ.....	2
SASインストールデータ (SAS Installation Data: SID) ファイル.....	2
SAS Order Information.....	2
標準 (Basic) とプラン (Planning)	2
SASHOME (SASホーム)	2
配置プラン (Deployment Plan)	3
大きなフォントの使用についての注意.....	3
SAS Download Managerとの同時実行についての注意.....	3
SAS Download Managerとの同時実行についての注意.....	3
UNIXのインストールアカウントについての注意	3
配置レジストリについての注意	3
Windows Terminal Serverの使用における注意点.....	3
UNIXウィンドウ環境における注意点	4
Federal Desktop Core Configuration)についての注意点.....	4
第2章 SAS Deployment Wizardの最適な使用方法	5
デフォルトを使用する	5
SASソフトウェアデポ	5
ディレクトリ構造	5
SASソフトウェアデポからメディアを作成する.....	6
ホットフィックスとメディアの作成についての注意点.....	6
メディアを焼く際の注意点.....	7
SASソフトウェアデポの移動	7
共有ネットワーク間における移動.....	7
共有されていないネットワーク間における移動	7
SASソフトウェアデポの削除	9
SIDファイルの管理	9
配置プランファイルの格納と使用	9
第3章 SAS Deployment Wizard : コマンドラインオプション	11
Quietインストール	11
QuietモードにおけるMIFファイル (Windowsのみ)	11

記録と再生	12
記録モード (Record Mode)	12
Quiet再生モード (Quiet Playback Mode)	13
Windowsにおける注意点.....	14
パーシャルプロンプト (Partial Prompting)	14
Quiet再生モード中のSAS Deployment Wizardの監視.....	14
Windows.....	14
UNIXおよびz/OS.....	15
対話的再生モード (Interactive Playback Mode)	15
再起動 (Windowsのみ)	16
ドメインの指定.....	16
ユーザーIDの指定.....	16
パスワードの指定.....	16
ログの作成	16
ホットフィックス	17
ホットフィックスの除外.....	17
ホットフィックスを含める (z/OSのみ)	17
その他	17
異なるSASHOMEの指定 (Windowsのみ)	17
テキストベースのインターフェイスの使用 (UNIXおよびz/OSのみ)	18
Java実行環境 (JRE)の変更.....	19
JRE変更後の再構成.....	19
SAS Foundationを含めないオーダーのサブセット.....	20
SAS Foundationを含めたオーダーのサブセット.....	20
サブセットされたプロダクトのレポートの作成.....	20
代替の一時ディレクトリの作成.....	21
スタンドアロンプロダクトのインストール.....	22
コマンドラインオプションの一覧の表示.....	22
第4章 ホットフィックスを探し適用する	23
初期インストールでホットフィックスを適用する.....	23
初期インストール後にホットフィックスを適用する.....	24
適用できるホットフィックスを探す.....	24
ホットフィックスを適用する.....	24
ホットフィックスのコマンドラインオプション.....	27
z/OSIにおける追加の注意点.....	30
ホットフィックスのログ.....	31
第5章 SAS Deployment Wizard : 基本的なトラブルシューティング	33
SAS Deployment Wizardがエラーメッセージなしで停止する.....	33
SAS Deployment Wizardのログファイル.....	33
インストールのログファイル.....	34

第6章 SAS Deployment Managerタスク	35
管理タスク	35
パスワードの更新 (Update Passwords)	35
Webアプリケーションの再ビルド (Rebuild Web Applications)	35
SASソフトウェアのアンインストール (Uninstall SAS Software) (グラフィカルユーザーインターフェイス アンインストールツール)	35
SASソフトウェアのQuietアンインストール.....	37
既存の構成の削除 (Remove Existing Configuration)	38
メタデータのSIDファイルの更新 (Update SID File in Metadata)	38
ホスト名参照の更新 (Update Host Name References)	38
ホットフィックスの適用 (Apply Hot Fixes)	38
既存の構成のアップデート (Update Existing Configuration)	38
SAS/ACCESSの設定	38
SAS/ACCESS Interface to Greenplumの設定 (UNIXのみ)	38
SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQLの設定 (UNIXのみ)	39
SAS/ACCESS Interface to MySQLの設定 (UNIXのみ)	39
SAS/ACCESS Interface to Oracleの設定 (UNIXのみ)	40
SAS/ACCESS Interface to Sybaseの設定 (UNIXのみ)	40
SAS/IntrNet サービスタスク	41
ソケットサービス (Socket Service) の作成.....	41
起動サービス (Launch Service) の作成.....	41
ロードマネージャ (Load Manager) の構成.....	42
プールサービスの作成.....	42
スポーナの構成 (UNIXのみ)	43
第7章 SAS Deployment Manager : コマンドラインオプション	45
Quiet配置 (Quiet Deployment)	45
記録と再生.....	45
記録モード (Record Mode)	45
Quiet再生モード (Quiet Playback Mode)	46
Windowsにおける注意点.....	46
パーシャルプロンプト (Partial Prompting)	47
Quiet再生モード中のSAS Deployment Managerの監視.....	47
対話的再生モード (Interactive Playback Mode)	48
テキストベースのインターフェイスの使用 (UNIXおよびz/OSのみ)	48
第8章 付属ツール	49
SAS Software Depot Check Utility (WindowsおよびUNIXのみ)	49
WindowsにおけるユーザーインターフェイスによるSAS Software Depot Check Utilityの実行.....	50
WindowsおよびUNIXにおける手動によるSAS Software Depot Check Utilityの実行	50
Windows.....	50
UNIX.....	51
View Registry	51

SAS File Type Management Tool (Windowsのみ)	52
SAS Update File Cleanup Utility (WindowsおよびUNIXのみ)	52
付録A Windowsの管理	55
ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSASのインストールの準備	55
ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSAS 9.3のインストール.....	55
付録B UNIXの管理	57
付録C 以前のバージョンのSAS Deployment Wizardでホットフィックスを適用する.59	
WindowsおよびUNIXにおけるホットフィックスの適用.....	59
ホットフィックスランチャースクリプトの使用.....	60
ランチャースクリプトのコマンドラインオプション	60
z/OSにおけるホットフィックスの適用	61
重要な注意事項.....	61
インストール手順	62
手順1: SASHOMEを探してSAS Deployment Registryをバックアップする	62
手順2: ホットフィックスの起動.....	62
手順3: ホットフィックスのテスト	65
手順4: ホットフィックスのプロダクションへのプロモート.....	65
適用後の注意事項	66

第1章 SAS Deployment Wizard、SAS Deployment Manager、およびユーザーガイドの概要

SAS Deployment Wizardについて

SAS Deployment Wizardは、すべてのSAS 9.3ソフトウェアのインストールおよび配置に使用する、共通のインターフェイスです。SAS Deployment Wizardを使用して、SAS 9.3ソフトウェアのインストールに必要なファイルとデータのリポジトリであるSASソフトウェアデポを作成し、情報をやり取りすることができます。SAS Deployment Wizardの機能をすべて生かしたインストールを行うと、1台のマシンへのインストールからいくつもの層にまたがる複数台のマシンへのインストールまで、幅広い配置を行うことが可能です。どちらに対しても、対話的（インタラクティブ）にもしくは非対話的（サイレント）に作業することができます。

SAS Deployment Managerについて

SAS Deployment Managerは、SAS Deployment Wizardにとてもよく似たツールです。しかし、SAS Deployment Managerは、いくつかのプロダクトの設定、ホットフィックスの適用、メタデータのアップデート、SASソフトウェアのアンインストール、のようなインストール後の構成作業に対して使用します。

ユーザーガイドの使用方法

このユーザーガイドは、SAS Deployment Wizardおよびその操作のためのサポート情報を提供するドキュメントです。このドキュメントは、各SAS Deployment Wizardのダイアログから起動するヘルプと共に、ソフトウェアのインストールと配置を支援する十分な情報を提供することを目的としています。しかし、さらなる詳細な技術情報が必要、または各画面の詳細を知りたい場合、『SAS 9.3 Intelligence Platform: Installation and Configuration Guide』を参照してください

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/>

それでも不明な点がありましたら、SASテクニカルサポートまでお問い合わせください。

用語の定義

SAS ソフトウェアでは、より容易にインストールを行うために、いくつかの新しい考え方を導入しています。このセクションでは、SASのインストールと配置に必要な用語について説明します。

Software Orderメール（Software Order E-mail：SOE）

Software Orderメールには、SASソフトウェアのパッケージ、およびSASソフトウェアのインストールの準備に関する重要な情報が含まれています。Software Orderメールは、各サイトのSASインストール担当者宛に送信されます。

Software Orderメールが見つからない場合、弊社コントラクト&リーガルアフェアーズ・ライセンシングオペレーショングループ（03-6434-3750）までお問い合わせください。

SASソフトウェアデポ

SASソフトウェアデポは、ネットワーク上のインストールメディアのリポジトリです。SAS Deployment Wizardは、ユーザーが所有するSAS 9.3インストールメディアからSASソフトウェアデポを自動的に作成するプロセスを起動できます。

SASインストールデータ (SAS Installation Data:SID) ファイル

SASインストールデータファイルは、カスタマイズされたインストール情報とプロダクト認証情報から成ります。SAS Deployment Wizardは、SIDファイルのインストール情報を使用し、ライセンスされたソフトウェアのインストールおよびカスタマイズされたプロダクトの認証情報の適用を行います。このファイルは、sas93_xxxxxx_yyyyyyy_zzz.txtの形式となっています。xxxxxxはオーダー番号、yyyyyyはsetnumid (テクニカルサポートサイト番号。テクニカルサポートが使用する識別子)、zzzはライセンスを適用するオペレーティングシステムを表します。

オーダーしたソフトウェアのSIDファイルは、SASソフトウェアデポのsid_filesディレクトリ、またはインストールメディアを受け取っている場合はメディアの最初のディスクのルートディレクトリのsid_filesディレクトリにあります。

SAS Order Information

SAS Order Informationは、オーダーしたSASソフトウェアのリストが含まれているファイルです。このリストは、Software Orderメールに含まれているものと同じです (Software Orderメールは日本語で提供しています)。SAS Order Informationファイルは、SASソフトウェアデポの/install_doc/<order number>/soi.htmlにあります。

標準 (Basic) とプラン (Planning)

Software Orderメール、およびSAS Order Informationには、配置の種類 (Deployment Type) を示すフィールドがあります。このフィールドの値は、BasicまたはPlanningのどちらかになります。Basic (標準) オーダーは、通常1台のマシンへの配置です。Planningオーダーは、より複雑な複数台のマシンへの配置です。複数のオーダーが存在する場合、このオーダーの種類によってオーダーを見分け、SAS Deployment Wizardの各項目を検討する際の方向性を決定します。

SASHOME (SASホーム)

SASHOMEは、マシン上のSASソフトウェアがインストールされる場所を指します。SASHOMEは、SAS Deployment Wizardで最初にソフトウェアをインストールするときに決定されます。また、他のSASソフトウェアを同じマシンにインストールする場合にはデフォルトのインストール場所になります。Windowsの場合、最初にマシン上でSAS Deployment Wizardを使用する際に、一度だけSASHOMEの場所の指定を求められることを意味します。

たとえば、WindowsのデフォルトのSASHOMEは、c:\Program Files\SASHomeです。以前のバージョンのSASをインストールした同じ場所は使用できません。

注意 : SAS Foundation プロダクトは、64-bit Linuxの互換性モードにおいて、SASがサポートする唯一の32-bitプロダクトです。64-bit Linuxにインストールする場合、別のSASHOMEディレクトリに32-bit SAS Foundationをインストールすることを推奨します。

配置プラン (Deployment Plan)

Basic (標準) オーダーのほとんどのインストールでは、配置プランを必要としません。配置プランは、SAS Deployment Wizardによってインストールされるソフトウェアを予め選択することです。配置プランには、配置プランの説明、インストールする対象マシンの識別、インストールおよび設定するソフトウェアのリストが含まれています。配置プランは、plan.xmlという名前のXMLファイルです。

SAS Deployment Wizardには、少しカスタマイズすることで使用できる標準の配置プランが用意されています。SASコンサルタントとともにソフトウェアの配置について検討する場合、SASコンサルタントはツールを使用して、インストールに必要なカスタマイズされた配置プランを作成します。

プラン配置を行うと、使用した配置プランのコピーが構成ディレクトリに、plan.<year-month-day-hour-minute>.xml形式で格納されます。たとえば、次のようになります。

```
C:\¥SAS¥Config¥Levl¥Utilities¥plan.2011-01-24-02.24.xml
```

大きなフォントの使用についての注意

SAS Deployment WizardまたはSAS Deployment Managerを、大きなフォントを使用または高DPIの設定のマシンで実行する場合、一部のページはアプリケーションの表示可能領域に切り詰められるかもしれません。その場合、最初に表示した際にアプリケーションのサイズを拡大することによって改善できます。

SAS Download Managerとの同時実行についての注意

SAS Deployment Wizardは、SAS Download Managerと同じ多くのファイルに書き込みます。それゆえ、SAS Deployment WizardおよびSAS Download Managerは、同時に実行できません。

SAS Download Managerとの同時実行についての注意

SAS Deployment Wizardは、SAS Download Managerと同じ多くのファイルに書き込みます。それゆえ、SAS Deployment WizardおよびSAS Download Managerは、同時に実行できません。

UNIXのインストールアカウントについての注意

UNIXでは、インストールに使用するアカウントにsasアカウントを使用しなければなりません。rootアカウントは、配置の不具合を起こすため、使用すべきではありません。

配置レジストリについての注意

SASソフトウェアに対するアップデートをサポートするため、インストールデータがSASHOMEディレクトリに作成される配置レジストリ (deployment registry) に格納されます。その場所は、<SASHOME>¥deplmregになります。アプリケーションのアップデートを正しく行うために、SASソフトウェアをインストールしている間、このレジストリに対し、どのような方法でも移動、変更、削除を行うべきではありません。このレジストリを削除するのは、SASソフトウェアをマシンから完全にアンインストールする場合のみにしてください。

Windows Terminal Serverの使用における注意点

Windows Terminal Server(Terminal Service)を使用する場合、ターミナルサーバー上のすべてのインストールおよびその後のアップデートの適用において、同じアカウントを使用しなければなりません。

UNIXウィンドウ環境における注意点

SAS Deployment Wizardは、デフォルトでグラフィカルユーザーインターフェイスを使用します。UNIX環境にインストールする場合、X11のようなウィンドウ環境が用意されていることを確認してください。テキストのインターフェイスを使用する場合は、『第3章 SAS Deployment Wizard : コマンドラインオプション』または『第7章 SAS Deployment Manager : コマンドラインオプション』の「テキストベースのインターフェイスの使用」を参照してください。

Federal Desktop Core Configurationについての注意点

使用しているシステムが、Federal Desktop Core Configuration (FDCC) セキュリティ基準に準じている場合、SAS Deployment Wizardがアップデートを行い再起動が必要に際に、自動ログイン機能を使用しないでください。

第2章 SAS Deployment Wizardの最適な使用方法

この章では、SAS Deployment WizardおよびSASソフトウェアデポの最適な使用方法について解説します。

デフォルトを使用する

SAS Deployment Wizardの使用において、SAS社は表示されるダイアログのデフォルトの設定を使用することを推奨します。SAS Deployment Wizardが起動している間は、各ダイアログに移動して、項目の確認や変更ができます。[ヘルプ] ボタンをクリックして、個々のページのデフォルトの詳細を調べることができます。

初期のデフォルト値を変更した場合、その設定は、その後にSAS Deployment Wizardをする際のデフォルトの設定になります。

SASソフトウェアデポ

SASソフトウェアデポは、ネットワーク上のインストールメディアのリポジトリです。

ディレクトリ構造

SASソフトウェアデポは、すべてのオーダーにおいて共通のディレクトリ構造を持ちます。下記は、SASソフトウェアデポのルートディレクトリにあるインストールに関連するディレクトリおよびその内容の説明です。SAS社は、どのような方法でも、手動でディレクトリ構造を変更しないことを強く推奨します。その代替りとして、SAS Deployment Wizardを使用して、必要な場合にディレクトリの操作を行ってください。

ユーザーが関わるディレクトリは3つあります。

- `sid_files` - このサブディレクトリには、オーダーのためのSASインストールデータファイル（SIDファイル）が含まれています。インストール中、SAS Deployment WizardにSIDファイルの場所を指定します。デフォルトでは、このディレクトリがSIDファイルの保存場所として設定されています。ライセンスの更新で新しいSIDファイルを受け取った際は、`sid_file`ディレクトリに保存してください。SAS社のテクニカルサポートは、最初のSIDファイルを削除しないことを推奨します。
- `third_party` - このサブディレクトリには、SAS社が提供できる、このオーダーに必要なサードパーティソフトウェア、およびそのインストールのためのドキュメントが含まれています。『クイックスタートガイド（QuickStart Guide）』では、インストールプロセスの中の適切な箇所で、サードパーティソフトウェアをインストールするように指示しています。
- `standalone_installs` - このサブディレクトリは、SAS Deployment Wizard外でインストールしなければならないSASソフトウェアを含んでいます。このソフトウェアのインストール手順は、プロダクトに応じて、下記に記載しているReadmeFilesサブディレクトリ、またはチェックリスト（Pre-installation Checklist）で説明しているInstallation Instructionのどちらかにあります。
- `install_doc` - このサブディレクトリは、オーダーに基づく小さなサブディレクトリに分かれています。各オーダーのディレクトリは、SAS Order Informationファイルおよびordersummary.htmlファイルを含んでいます。ordersummary.htmlファイルは、そのオーダーに含まれるすべてのプロダクトのリストです。

オーダーにthird_partyまたはstandalone_installsサブディレクトリが含まれている場合、/install_doc/<order number>/ReadmeFilesフォルダのreadmeファイルには、これらのサブディレクトリ中のソフトウェアをどのようにインストールするかについて記載してあります。

SASソフトウェアデポからメディアを作成する

SAS Deployment Wizardを使用して、既存のSASソフトウェアデポからメディアを作成することができます。このプロセスは、オーダーのデータに記録されている最初のオーダーのコピーを作成します。ファイル（たとえば更新用のSIDファイル）をSASソフトウェアデポに追加しても、そのような手動の操作はオーダーのデータには記録されないため、複製プロセスに自動的に含まれません。この複製プロセスは、メディアのイメージを作成します。実際にメディアに焼くには、ライティングソフトウェアを用意する必要があります。SASソフトウェアデポからメディアを作成する方法は、次のとおりです。

1. メディアにするオーダーを含むSASソフトウェアデポから、SAS Deployment Wizardを起動します。
[配置タスクの選択] ダイアログで、[このSASソフトウェアデポの管理]、さらに[次へ]をクリックします。
2. [SASソフトウェアデポの管理] ページが表示されます。メディアを作成するオーダーを選択し、[Media-Readyイメージの作成] をクリックします。
3. [メディアの作成] ページが表示されます。[メディアの種類] フィールドで、作成するメディアの種類を選択します。[ターゲットディレクトリ] フィールドで、メディアのイメージを作成する場所を入力します。作成場所を選択するには、[参照] ボタンをクリックします。[開始] をクリックして、メディアのイメージを作成します。
4. SAS Deployment Wizardがイメージの作成を終了したら、[メディアの作成] ダイアログを閉じ、[完了] をクリックします。
5. 手順3で指定した、メディアのイメージを作成した場所に移動します。SAS Deployment Wizardは、labels.txtファイル、および少なくとも1つのサブディレクトリからなる、ディレクトリ構造を作成しています。labels.txtファイルには、作成したサブディレクトリ名、およびこれらディレクトリの内容を焼くメディアに付けるラベル名が含まれています。また、特定のソフトウェアのオーダーでは、必要となる追加の作業手順が含まれている場合もあります。

ターゲットディレクトリにあるサブディレクトリと同じ数のメディアが必要になります。labels.txtファイルの記述に従って、メディアにラベルを付けるか書き込んでください。

6. ライティングソフトウェアを使用して、ラベルを付けたメディアに各サブディレクトリの中身を焼いてください。

注意：サブディレクトリ自体をメディアに焼かないでください。サブディレクトリを開きその中身をメディアに焼いてください。作成したメディアを使用する際、メディアのトップディレクトリには、インストールに必要なファイルがなければなりません。サブディレクトリごとメディアに焼くと、メディアの使用を妨げる余分なディレクトリが挿入されたこととなります。

ホットフィックスとメディアの作成についての注意点

メディアに焼くオーダーのどのようなホットフィックスも、このプロセスには含まれません。オーダーのソフトウェアに対する最新のホットフィックスを入手するには、そのメディアからSASソフトウェア

デポを作成し、SAS Deployment Wizardを起動します。[配置タスクの選択] ページで、[このSASソフトウェアデポの管理] を選択し、[SASソフトウェアデポの管理] ページで [ホットフィックスの取得] を選択し、最新のホットフィックスを探し、ダウンロードします

メディアを焼く際の注意点

SAS Deployment Wizardの開発およびテスト中、SAS社はメディアとライティングソフトウェア間における問題点を発見しました。これらは時として予期しないエラーをもたらすことがあります。これらのエラーは、SAS Deployment Wizardを含むSASソフトウェアが原因ではありません。これらの問題は、メディアを焼く過程における失敗、またはメディアを焼くドライブとメディアを読み込むドライブの仕様の相違によるものです。

メディアを焼く際と読み込みの際、同じ種類のドライブを使用するようにしてください。メディアの読み込みの際に異なるドライブを使用した場合、インストールが中断しファイルに問題があると表示されるなど、予期しないエラーが起こる場合があります。テストでは、どの場合も、ファイルの問題はメディアに焼く過程で発生していること、およびインストールの中断は焼いたメディアを読み取り側が読めないことを示していました。同じ種類のドライブを使用することが、問題を生じさせないという保証はありませんが、問題を生じさせる可能性をより少なくします。また、使用しているライティングソフトウェアが、ディレクトリ名とファイル名を保持しているかを確認してください。つまり、パス名を構成するいずれの部分も切り詰めてはなりません。

また、ライティングソフトウェアの多くが、オペレーティングシステム固有であることに注意してください。焼いたメディアを、それを焼くのに使用したのとは異なるオペレーティングシステムで使用する場合、ライティングソフトウェアがそのオペレーティングシステムをサポートしているかどうか確認してください。

SASソフトウェアデポの移動

SASソフトウェアデポを元にあった場所から移動またはコピーする場合、方法は移動元および移動先のネットワーク事情に依存します。

共有ネットワーク間における移動

SAS Deployment Wizardでは、最初に表示される [配置タスクの選択] ページから [SASソフトウェアデポの作成または追加] を選択することにより、既存のSASソフトウェアデポをコピーすることができます。[SASソフトウェアデポの作成または追加] を使用する場合、SAS Deployment Wizardは、新しい場所により小さなSASソフトウェアデポを作成できるようにするために、既存のSASソフトウェアデポのオーダーをサブセットすることもできます。[配置タスクの選択] およびそれに続くページの [ヘルプ] に、サブセットの方法が記載されています。

共有されていないネットワーク間における移動

SASソフトウェアデポを、共有されていないネットワーク上の場所に移動する場合、SAS社はFTPを使用してデポを移動するSAS Software Depot Copy UtilityをWindows用およびUNIX用に提供しています。

注意： UNIX用SAS Software Copy Utilityは、FTPライブラリを使用します。UNIX環境上で使用できるのがSFTPのみの場合、デポをコピーするには、下記のメディア作成プロセスを使用してください。SAS 9.3の将来のリリースでは、SFTPで動作するSAS Software Depot Copy utilityを提供する予定です。

SAS Software Depot Copy Utility

SAS Software Depot Copy Utilityは、SASソフトウェアデポ全体を指定した場所にコピーします。このユーティリティを使用して、オーダーのサブセットを作成することはできません。

SAS Software Copy Depot Utilityは、SASソフトウェアデポの¥utilities¥depotcopierディレクトリにあります。Windowsで使用する場合は、SASDepotCopierUtility.exeをダブルクリックしてください。UNIXで使用する場合は、SASDepotCopierUtility.shを実行してください。Windowsの場合は、[コマンドプロンプト] ウィンドウが表示され、UNIXの場合は、xtermウィンドウに「questions」が表示されます。

1. Copy Utilityは、SASソフトウェアデポをコピーするリモートマシンのホスト名を入力を求めます。SASソフトウェアデポをコピーする場所を入力し、Enterキーを押します。
2. Copy Utilityは、コピー先のマシンに書き込み可能なユーザーIDの入力を求めます。ユーザーIDを入力し、Enterキーを押します。
3. Copy Utilityは、上記のユーザーIDに対応するパスワードの入力を求めます。パスワードを入力し、Enterキーを押します。セキュリティ上の理由により、入力したパスワードは表示されません。
4. Copy Utilityは、作業しているマシン上のSASソフトウェアデポの場所の入力を求めます。その場所を入力し、Enterキーを押します。
5. Copy Utilityは、コピーしたSASソフトウェアデポを置くリモートマシン上の場所の入力を求めます。その場所を入力し、Enterキーを押します。Enterキーを押すと、コピープロセスが実行されます。

注意： 選択する場所は、すでに作成されている既存の場所でなければなりません。このユーティリティは、新規のディレクトリを作成できません。

6. コピープロセスが終了すると、作業が完了したことを示すメッセージが表示されます。Windowsの場合、[コマンドプロンプト] ウィンドウを終了してください。

注意： デポをWindows環境からUNIX環境へコピーしている場合、適切な実行権限を手動で設定する必要があります。コピーの終了後、下記のコマンドを発行してください。

```
chmod -R 755 <depot location>
```

メディア作成プロセスの使用 (UNIXのみ)

UNIX環境上で使用できるのがSFTPのみの場合、デポからメディアを作成する手順を実行する必要があります。SASソフトウェアデポの移動またはコピーに使用するツールは、ファイル名の太文字小文字を変更してはならず、またロングファイル名を8.3形式に切り詰めてはならないことに注意してください。

1. 上記の「SASソフトウェアデポからメディアを作成する」で解説した手順を実行してください。
2. SASソフトウェアデポを作成するマシンに作成したメディアを用意します。最初のメディアを挿入し、各オペレーティングシステム用の起動ファイルを選択し、SAS Deployment Wizardを起動します（例：Windowsの場合はsetup.exeになります）。手元にあるメディアが1枚の場合、[配置タスクの選択] ダイアログで、[SASソフトウェアデポの新規作成] を選択し、および [次へ] をクリックします。SAS Deployment Wizardに表示される手順に従って、ファイルをメディアから新しい場所にコピー（新しいSASソフトウェアデポの作成）してください。

複数枚のメディアが手元にある場合、SAS Deployment Wizardはダイアログを表示してSASソフトウェアデポの作成を自動的に開始します。

SASソフトウェアデポの削除

SAS社は、SASソフトウェアデポを削除しないことを強く推奨します。SASソフトウェアデポを残しておいた場合、SASオーダー全体を再度ダウンロードする代わりに、変更されたデポのファイルのみをダウンロードし、簡単にメンテナンスおよびアップグレードを適用できます。

空きディスク容量の関係上、SASソフトウェアのインストール後にSASソフトウェアデポを削除する必要があるかもしれません。SASソフトウェアデポを削除する場合、必要になる場合に備えて、メディアにバックアップすることを推奨します。バックアップメディアの作成方法は、前述の「SASソフトウェアデポからメディアを作成する」を参照してください。

バックアップを作成することなくSASソフトウェアデポを削除すると、SAS Deployment Wizardとそれを実行するのに必要なファイルも削除されることに注意してください。

SIDファイルの管理

SIDファイルの管理に関して、注意点が2つあります。1つ目は、SIDファイルのデフォルトの保存場所を使用するか、保存場所を正確に記録しておいてください。2つ目は、その後に受け取るSIDファイルも同じ場所に保存してください。前述のsid_filesサブディレクトリにSIDファイルを保存すると、これらの目的を両方とも満たすこととなります。

企業全体に配置を行っている場合、すべてのユーザーが利用できるように、SIDファイルをネットワーク上に保存することも考慮してください。

配置プランファイルの格納と使用

デフォルトでは、ソフトウェアと一緒に出荷された配置プランファイルは、SASソフトウェアデポのルートにあるplan_filesディレクトリに格納されています。カスタマイズされた配置プランファイルを受け取るまたは作成した場合、それらもplan_filesディレクトリに保存してください。配置プランファイルを区別するために、各plan.xmlファイル用の新しいディレクトリをplan_filesディレクトリに作成するか、あるいは単に接頭辞を追加する (entbiserver.plan.xmlなど) ことができます。接頭辞を追加する場合、ファイル名の終わりは必ずplan.xmlとしてください。

SASソフトウェアのインストール後、配置プランファイルは厳密には必要ありません。しかし、プロセスの記録管理、将来の再インストールおよび再設定、プロダクトの追加のために手元に保存しておくこともあります。

第3章 SAS Deployment Wizard : コマンドラインオプション

Quietインストール

Quietモードのインストールでは、ウィザードを対話的に実行する場合の応答を、ユーザーが不在でも自動的に行うことができます。これは、ユーザーが立ち会わない状況で使用することを想定しています。

Quietインストールを行うには、下記の「記録と再生」の「記録モード」に従って、最初に応答ファイルを作成します。応答ファイルを作成したら、下記の「Quiet再生モード」の指示に従って、インストールを行うマシン上でQuietインストールを行います。

Windowsのユーザーは、以下の「再起動 (Windowsのみ)」セクションで説明しているコマンドラインオプションを、起こるかもしれない再起動に対して使用することも考慮してください。

QuietモードにおけるMIFファイル (Windowsのみ)

管理情報フォーマット (MIF : Management Information Format) ファイルは、System Requirements Wizard または SAS Setup の成否の調査のために、Quietモード中に作成されます。このファイルに含まれる情報は、通常Microsoft SCCMによって使用されますが、インストールの成否を調査する方法にも使用できます。

MIFファイルは、常にTempディレクトリに出力され、デフォルトではsas.mifという名前になります。MIFファイルは、いくつものSTARTで始まりENDで終わるセクションを含んでいます。これらは、ツールの実行に関連する属性を定義しています。ツールの成否を判断する特定の箇所は、「InstallStatus」と呼ばれるセクションです。以下に例を示します。

```
START GROUP
  NAME = "InstallStatus"
  ID = 2
  CLASS = "MICROSOFT|JOBSTATUS|1.0"
  START ATTRIBUTE
    NAME = "Status"
    ID = 1
    ACCESS = READ-ONLY
    STORAGE = SPECIFIC
    TYPE = STRING(32)
    VALUE = "Success"
  END ATTRIBUTE
  START ATTRIBUTE
    NAME = "Description"
    ID = 2
    ACCESS = READ-ONLY
    STORAGE = SPECIFIC
    TYPE = STRING(255)
    VALUE = "Installation Successful."
  END ATTRIBUTE
END GROUP
```

StatusおよびDescriptionフィールドでは、それらの換算値と共に、インストール結果に関する情報を提供します。この例では、上記に示すように、インストールは成功しています。失敗した場合の、各フィールドの例を示します。

```
NAME = "Status"
VALUE = "Failed"
NAME = "Description"
VALUE = "Installation aborted by the user."
```

MIFファイルが成功を示している場合、ログファイルを気にする必要はありません。MIFファイルが失敗を示していて、さらにトラブルシューティングが必要と思える場合、ログファイルを参照してください。

記録と再生

記録と再生は、ダイアログへの応答をファイルに保存し後でそれをロードして使用する、SAS Deployment Wizardの機能です。SAS Deployment Wizardは、記録と再生に3つのモードを提供します。下記では、各モードについて解説しています。

SASソフトウェアデポの作成および操作中は、「記録と再生」セクションのどのコマンドラインオプションの使用もサポートされないことに注意してください。

記録モード (Record Mode)

注意： 作成された応答ファイルは、プレーンまたは暗号化されたパスワードを含んでいる場合があります。他の重要な情報を含むファイルと同様に、応答ファイルを安全な場所で管理してください。

SAS Deployment Wizardを記録モードで実行すると、SAS Deployment Wizardを実行したときに表示される各ページの値を含む応答ファイルを作成します。このモードによる応答ファイルを作成する際、SAS Deployment Wizardは最後まで実行しなければなりません。

注意： ユーザーからの応答が必要なプロダクトを含む配置を記録した場合、応答ファイルにはそれらの手動の操作は記録されません。したがって、この方法で作成した応答ファイルは、いずれの再生方法（Quiet再生モードまたは対話的再生モード）で使用するのも適切ではありません。「記録」と「再生」を使用する場合、Dataflux Integration ServeおよびdfPower Studioがインストールするプロダクトのリストに表示されていない、またはそのリストで選択されていないことを確認してください。

使用方法：

```
-record
```

応答ファイルは、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリに作成されます。ファイル名はsdwresponse.propertiesになります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって、指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

注意： ファイルの保存場所として、既存のファイルがある場所を指定した場合、既存のファイルはSAS Deployment Wizardによって上書きされます。

「記録」を使用する際にその他のコマンドラインオプションを指定しても、それらのオプションは応答ファイルに含まれません。応答ファイルを適切に使用するには、「再生」でそれら同じコマンドラインオプションを再度指定しなければなりません。

例：

```
setup.exe -record -responsefile "C:\%sdwresponse.properties"
```

デフォルトでは、記録モードを実行した場合、配置は行われません。記録中に配置を行うには、引数に `-deploy` を指定します。

注意： `-record` および `-deploy` 両方のコマンドラインオプションを使用する場合、特定のマシンに対するインストールを記録することになります。したがって、作成されたその応答ファイルを他のマシンに対して使用するのには適切ではありません。SAS社は、この2つのオプションを同時に使用して作成した応答ファイルを他のマシンに使用する場合は、慎重に行うことを推奨します。

さらに、応答ファイルは同一のオーダーにおけるソフトウェアに対してのみ使用してください。ある応答ファイルを、他のオーダーの配置に対して使用することは、意図しない原因を突き止めることが難しい結果をもたらす場合があります。

Quiet再生モード (Quiet Playback Mode)

このモードで実行すると、SAS Deployment Wizardのユーザーインターフェイスが表示されません。このモードで実行するには、応答ファイルが作成されている必要があります。応答ファイル中に有効な応答のないダイアログが存在する場合、ログファイルにメッセージが記録され、SAS Deployment Wizardはエラーコード `-1` を返します。このモードによるSAS Deployment Wizardの実行中は、視覚的なフィードバックはありません。インストール後、ログファイルを参照し、エラーの有無を確認することを推奨します。

ログファイルの置き場所は、「SAS Deployment Wizardのログファイル」で解説しています。

注意： SAS Deployment Wizardの実行中に、必要条件のソフトウェアのインストールのために強制的にマシンの再起動が行われた場合、SAS Deployment Wizardは、Quiet再生モードではなくなります。

使用方法：

```
-quiet
```

応答ファイルは、前もって作成されていなければなりません。作成場所は、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリで、ファイル名は `sdwresponse.properties` になります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
setup.exe -quiet -responsefile "C:\%Program Files%\SASHome\%sdwresponse.properties"
```

注意： z/OSおよびUNIXにおいて、SAS Data Integration StudioまたはSAS Web Infrastructure Platformを構成するには、X11に対応したディスプレイ環境が必要条件になります。SAS Data Integration Studio

またはSAS Web Infrastructure Platformの構成をQuietモードで行なう場合、SAS社はXvfbのような仮想フレームバッファの使用を推奨します。

Windowsにおける注意点

Windowsのユーザーは、さらに-waitオプションも指定できます。-waitオプションを指定すると、SAS Deployment Wizardが完了するまで、タスクマネージャのプロセスリストにsetup.exeプロセスが表示され続けます。このことは、Microsoft SCCMやIBM Tivoliのようなプロビジョニングソフトウェアを使用している場合に重要になります。下記に、-waitオプションを指定した例を示します。

```
setup.exe -wait -quiet -responsefile "C:¥sdwresponse.properties"
```

パーシャルプロンプト (Partial Prompting)

SAS Deployment Wizardをパーシャルプロンプトモードで実行すると、応答ファイルに有効な値がないダイアログのみ表示されます。このモードは、再起動による中断後、SAS Deployment Wizardが再開し、初めに設定された値がもはや有効でない場合に使用されます。これは、マップされたドライバが、Windowsの再起動後に見つからない場合に生じます。また、このモードは、管理者が一部の配置情報をユーザーに提供する場合に使用することができます。

使用方法：

```
-partialprompt
```

応答ファイルは、前もって作成されていなければなりません。作成場所は、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリで、ファイル名はsdwresponse.propertiesになります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
setup.exe -partialprompt -responsefile "C:¥Program Files¥SASHome¥sdwresponse.properties"
```

Quiet再生モード中のSAS Deployment Wizardの監視

QuietモードにおけるSAS Deployment Wizardの実行では、インストールの監視や、エラーに気付くのがより困難です。この問題に対処するには、Windowsでは - quietstatusオプションを使用し、UNIXおよびz/OSでは定期的にpsコマンドを発行して、SAS Deployment Wizardが動作しているかどうかを追跡します。

Windows

Windowsでは、SAS Deployment WizardをQuietモードで起動する際に、 - quietstatusオプションを指定することにより、配置がいつ完了したのかを確認できる小さな状況を示すダイアログが表示されます。さらに、状況ダイアログを最小サイズで表示するための - minimizeオプションを指定することができます。

使用方法：

```
-quietstatus -minimize
```

例：

```
setup.exe -wait -quiet -responsefile "C:\Program Files\SAS\sdwresponse.properties"
-quietstatus -minimize
```

UNIXおよびz/OS

UNIXおよびz/OSでは、ほとんどのプロセスと同様に、Quietモードで実行中のSAS Deployment Wizardを監視するにはpsコマンドを発行します。SAS Deployment Wizardが実行する実際のスクリプトはその時々によって変わるため、psコマンドの出力ではプロセス名は常にsetup.shではないことを憶えておいてください。しかし、プロセスIDは同じままになります。

たとえば、SAS Deployment Wizardを実行し、すぐにpsコマンドを発行（[言語の選択] ダイアログボックスが表示される前に）したとします。出力は次のようになります。

```
31762 pts/2 S 0:00 /bin/sh /depot/setup.sh
```

シェル/bin/shが起動した最初のスクリプトは、/depot/setup.shです。シェルは親プロセスで、この例ではプロセスIDは31726になります。setup.shが実行を終了すると、制御はスクリプトにdeploywiz.shに渡されます。SAS Deployment Wizardを実行している間にプロセスを確認すると、表示はおおよそ下記のようにになります。

```
31762 pts/2 S 0:00 /bin/sh
/tmp/_setup31762/products/deploywiz__9220__prt__xx__sp0__1/deploywiz.sh
-startuplocation /depot
-templocation /tmp/_setup31762
```

シェル/bin/shはまだ存在していて、同じプロセスIDを保持しています。しかし、このシェルは現在異なるスクリプトdeploywiz.shを実行しています。

対話的再生モード (Interactive Playback Mode)

SAS Deployment Wizardのダイアログに対する応答を、すべてデフォルトにするのにも応答ファイルを使用することができます。このモードでは、SAS Deployment Wizardのすべてのダイアログが表示され、デフォルト値が応答ファイルからロードされます。

注意：UNIX環境で、ソフトウェアのインストールに-responsefileコマンドラインオプションを使用する場合においても、X11のようなウィンドウ環境をインストールしておく必要があります。-responsefileコマンドラインオプションを使用すると、グラフィカルユーザーインターフェイスが呼び出されます。

使用方法：

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
setup.exe -responsefile "C:\Program Files\SASHome\sdwresponse.properties"
```

再起動 (Windowsのみ)

Quietインストールを行っている場合、マシンの再起動後、SAS Deployment Wizardが非対話的に作業を再開できるようにするため、以下のコマンドラインオプションを使用してください。

注意：以下のコマンドラインオプションに使用する値は、Windows自動ログオン機能を使用してWindowsレジストリに一時的に保存されます。まれに、これらの値が使用後にWindowsレジストリに残る場合があります。その場合には潜在的セキュリティリスクになります。この機能の詳細および含まれるセキュリティリスクについての情報は、マイクロソフト社のこの問題に関するドキュメントを参照してください。再起動後の自動ログオンの利便性におけるリスクと、そのサイトにおけるセキュリティポリシーを比較検討して運用してください。

ドメインの指定

このコマンドラインオプションは、マシンの再起動後にログオンするドメインを指定できます。

使用方法：

```
-restartdomain <domain name>
```

例：

```
setup.exe -restartdomain localnt
```

ユーザーIDの指定

このコマンドラインオプションは、マシンの再起動後のログオンに使用するユーザーIDを指定できます。

使用方法：

```
-restartuserid <user ID>
```

例：

```
setup.exe -restartuserid myname
```

パスワードの指定

このコマンドラインオプションは、マシンの再起動後のログオンに使用するパスワードを指定できます。

使用方法：

```
-restartpassword <password>
```

例：

```
setup.exe -restartpassword code1234
```

ログの作成

配置において、ログファイルで使用する詳細のレベルを指定するのに、コマンドラインを使用することができます。3種類のログレベルがあります。

- ログレベル0–このレベルは、SAS Deployment Wizardのログを、最も低い詳細度に設定します。配置についておおよその情報のみ提供します。
- ログレベル1–このレベルは、SAS Deployment Wizardのログを、デフォルトの詳細度に設定します。冗長モードです。
- ログレベル2–このレベルは、SAS Deployment Wizardのログを、最も高いレベルに設定します。デバッグモードです。

使用方法：

```
-loglevel <value between 0 and 2>
```

例：

```
setup.exe -loglevel 2
```

ホットフィックス

ホットフィックスに関する詳細は、「第4章 ホットフィックスを探し適用する」を参照してください。

ホットフィックスの除外

オーダーに含まれるホットフィックスをインストールすることを望まない場合、SAS Deployment Wizardを起動する際に、-nohotfixコマンドラインオプションを使用してください。

使用方法：

```
-nohotfix
```

例：

```
setup.exe -nohotfix
```

ホットフィックスを含める (z/OSのみ)

元のオーダーに追加したソフトウェアのインストール中、オーダー内のホットフィックスがインストールされることを容認する場合、-hotfixupdateコマンドラインオプションを使用してください。このコマンドラインオプションは、ホットフィックスを含むオーダーは、クリーンなSASHOMEにのみインストールできる、というルールの特例を作成します。

使用方法：

```
-hotfixupdate
```

例：

```
sasdm.rexx -hotfixupdate
```

その他

異なるSASHOMEの指定 (Windowsのみ)

WindowsでSAS Deployment Wizardを最初に使用する際、SASHOMEとして参照されるSASソフトウェアをインストールする場所を指定するように求められます。最初に指定したその場所が、その後のすべて

作業においてデフォルトの場所として使用されます。デフォルトではない異なる場所をSASHOMEとして使用する場合、-changesashomeオプションを使用してSAS Deployment Wizardの [SASホームの指定] ページを表示させてください。SAS Deployment Wizardは、ここに指定した場所を新しいSASHOMEをデフォルトの場所として使用します。

注意：Windowsでは有効なSASHOMEは1つだけです。使用中のSASソフトウェアを含むSASHOMEをすでに定義していて、そのSASソフトウェアを使用し続ける場合、-changesashomeは使用するべきではありません。同じSASのリリースによる複数のSASHOMEは、Windowsではサポートしていません。

使用方法：

-changesashome

例：

setup.exe -changesashome

テキストベースのインターフェイスの使用（UNIXおよびz/OSのみ）

UNIXまたはz/OSのX11サーバーで作業することを望まない場合、ヘッドレスシステムの使用により、コンソールモードでSAS Deployment Wizardを使用することができます。

注意：コンソールモードは、物理メディアの場合は使用できません。つまり、DVDからソフトウェアデポを作成するのに、コンソールモードは使用できません。しかし、物理メディアから作成したデポを含むどのようなデポからも、ソフトウェアをインストールするのにコンソールモードを使用できます。

コンソールモードを使用すると、SASソフトウェアのインストールにおける各ダイアログが、下記の例のようにテキストで表示されます。

```
Select a language in which to view the SAS Deployment Wizard.
```

```
( ) 1 - German
(*) 2 - English
( ) 3 - Spanish (Castillian)
( ) 4 - French
( ) 5 - Italian
( ) 6 - Japanese
( ) 7 - Korean
( ) 8 - Chinese Traditional
( ) 9 - Chinese Simplified
```

The * character indicates the current selection.

You can change the selection by specifying a number below.

Enter <q> to quit.

Press Enter to accept the current selection and continue.

Selection:

注意：アングルブラケット（大なり小なり）を含む一連の入力を求められた場合（たとえば、上記の Enter <q> to quit）、それらの記号も含めて入力しなければなりません。

- consoleコマンドラインオプションは、応答ファイルの記録または再生などの他のオプションと同時に使用することができます。

注意：グラフィカルユーザーインターフェイスを使用しないで配置を行なうのに、コンソールモードで SAS Deployment Wizardを実行する場合は、DISPLAY環境変数の設定を外しブランクにします（DISPLAY=）。

また - consoleコマンドラインオプションは、SAS Deployment Wizardの出力のサイズを指定する2つのオプションをサポートしています。出力を一時停止（ポーズ）する行数を指定するには、- pagesize #を使用します。また、行の折り返しの文字数を指定するには、- pagewidth #を使用します。- pagesizeと - pagewidthは、他のコマンドオプションと共に使用できません。

注意：z/OSおよびUNIXにおいて、SAS Data Integration StudioまたはSAS Web Infrastructure Platformを構成するには、X11に対応したディスプレイ環境が必要条件になります。SAS Data Integration StudioまたはSAS Web Infrastructure Platformの構成をコンソールモードで行なう場合、SAS社はXvfbのような仮想フレームバッファの使用を推奨します。

使用方法：

```
-console [-pagesize #] [-pagewidth #]
```

例：

UNIX

```
setup.sh -console -pagesize 20 -pagewidth 50
```

z/OS

```
setup.rexx -console -pagesize 20 -pagewidth 50
```

Java実行環境(JRE)の変更

SASインストールにおける最初のJava実行環境（JRE）の選択の後、その後の任意の配置においてSAS Deployment Wizardのページから、異なるJREに変更することができます。しかし、アップデート（更新）のインストールで、かつ新しいJREを指定したい場合、forcejrepromptコマンドラインオプションを使用してください。-forcejrepromptは、SAS Deployment WizardにSASソフトウェアと共に使用するJREの場所を問い合わせさせます。このオプションは、アップデートを適用する場合にのみ有効です。

使用方法：

```
-forcejreprompt
```

例：

```
setup.exe -forcejreprompt
```

JRE変更後の再構成

-forcejrepromptを使用してJREを変更する場合、Javaで作成されたプロダクトが変更したJREを使用するように、sassw.configファイルも修正する必要があります。SASHOMEディレクトリからsassw.configフ

ファイルを探してください。それから、テキストエディタでsassw.configファイルを開き、JRE値を-forcejrepromptコマンドラインオプションで変更するJREへのフルパスに修正します。たとえば、次のようになります。

```
JREHOME=C:\Program Files\Java\jre6\bin\java.exe
```

影響を受けるすべての個所が適切に更新されていることを確認するため、JRE変更後に行うべき追加作業があります。詳細は、SAS社のWebサイトにあるドキュメント「その他のJava Runtime Environment または、Java Development Kitを使用したSAS 9.3の構成」 (<http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan/service/resources/thirdpartysupport/v93/AlternateJRE.html>) を参照してください。

SAS Foundationを含めないオーダーのサブセット

SASソフトウェアデポを移動またはコピーする場合、ダイアログを使用して、一部分のみの移動またはコピーとなるように、対象のデポのオーダーをサブセットできます（デポの移動およびコピーについては、前掲の「共有ネットワーク間における移動」セクションを参照してください）。オーダーをサブセットする方法の1つは、「SAS Foundationプロダクト」のサブセットです。これはすなわち、SAS/GRAPHやSAS/STATなどの、通常はサーバーにインストールされるSASプロダクトのサブセットを行います。

- subsetclientsコマンドラインオプションは、SAS Enterprise GuideやSAS Add-in for Microsoft Officeなど、構成可能ではないクライアントプロダクトをサブセットできるように、表示されるダイアログを変更します。- subsetclientsコマンドラインオプションを使用すると、[SAS Foundationプロダクト] チェックボックスの表示が、[プロダクト] に変更されます。また、このコマンドラインオプションを使用すると、構成可能ではない（non-configurable）クライアントソフトウェアのみダイアログのリストに表示されます。

使用方法：

```
-subsetclients
```

例：

```
setup.exe -subsetclients
```

SAS Foundationを含めたオーダーのサブセット

また、SAS Foundationプロダクトおよび上記に示した構成可能ではないクライアントプロダクト、の両方を含めたオーダーのサブセットを、- subsetnonconfigコマンドラインオプションを使用して行うことができます。- subsetnonconfigコマンドラインオプションを使用しても、[SAS Foundationプロダクト] チェックボックスの表示は変わりません。

使用方法：

```
-subsetnonconfig
```

例：

```
setup.exe -subsetnonconfig
```

サブセットされたプロダクトのレポートの作成

コマンドラインオプションあるいはSAS Deployment Wizardのダイアログを使用してオーダーのサブセットを行うと、サブセットしたオーダーに、どのプロダクトが含まれたのかあるいは除外されたのかに

ついてレポートが必要になる場合があります。このようなレポートを作成するには、コマンドラインに `-listdepot` オプションを使用して、SAS Deployment Wizard を起動します。次に、作成したレポートの例を示します。

```
Date: 2011 Sep 25 10:02:56
Depot: /SASHOME
```

```
Order: 099SPS
+ Base SAS [base__93ts1m0__mvs__ne__sp0__1]
+ Base SAS [base__93ts1m0__mvs__w0__sp0__1]
+ Base SAS Help and Documentation [basedoc__93110__prt__xx__sp0__1]
+ Base SAS JAR Files [basejars__93110__prt__xx__sp0__1]
<...>
```

```
Order: 099SQ2_2011-07-19-12.27.01
+ Advanced Analytics Common Components [aacomp__93110__wx6__en__sp0__1]
+ DATA Step to DS2 Translator [acclmva__93160__wx6__en__sp0__1]
+ Microsoft Office Access Database Engine 2010 [ace__93112__prt__xx__sp0__1]
- SAS/GRAPH ActiveX Control [activexgraph__93230__win__de__sp0__1]
+ SAS/GRAPH ActiveX Control [activexgraph__93230__win__en__sp0__1]
- SAS/GRAPH ActiveX Control [activexgraph__93230__win__es__sp0__1]
```

Date フィールドは、このレポートを作成した日時を示します。Depot フィールドは、SAS Deployment Wizard によって作成された、サブセットされたオーダーの場所を示します。Order フィールドは、サブセットされた元のオーダーのオーダー番号を示します。

プロダクトのリストでは、+記号は、そのプロダクトが元のオーダーに含まれ、かつサブセットされたオーダーに含まれて Depot フィールドに記載された場所に置かれていることを示します。-記号は、そのプロダクトが元のオーダーに含まれ、かつサブセットされたオーダーには含まれていないことを示します。

使用方法:

```
-listdepot <location to create report>¥<output file name>
```

例:

```
setup.exe -listdepot "C:¥temp¥SASDepotList.txt"
```

代替の一時ディレクトリの作成

SAS Deployment Wizard は、実行時に作成され終了時に削除される、一時（テンポラリ）ディレクトリから実行されます。一時ディレクトリが、SAS Deployment Wizard の実行に対して小さすぎると考えられる場合、`-templocation` コマンドラインオプションを使用して一時ディレクトリを指定することができます。

使用方法:

```
-templocation <directory location>
```

例:

```
setup.exe -templocation "C:¥temp¥SDW"
```

注意：SAS Deployment Wizardの終了時、一時ディレクトリおよびその中のすべてのファイルは削除されます。一時ディレクトリを指定する場合、削除するわけにはいかないものがその場所がないことを、確認にしてください。

スタンドアロンプロダクトのインストール

SAS Integration Technologies ClientやSAS Providers for OLE DBなどのいくつかのSASプロダクトでは、「スタンドアロン」と説明される、少し異なる配置方法があります。スタンドアロンプロダクトがWindows上でSAS Foundationと同時にインストールされる場合、スタンドアロンプロダクトは [配置の要約] ダイアログのインストールされるプロダクトの一覧に表示されません。これは、そのプロダクトがSAS Foundationの一部としてインストールされるからです。スタンドアロンプロダクトをSAS Foundationを選択しないでインストールすると、[配置の要約] ダイアログのインストールされるプロダクトの一覧に表示されます。

コマンドラインオプションの一覧の表示

SAS Deployment Wizardで使用できるコマンドラインオプションの一覧を表示するには、-helpオプションを指定します。このコマンドラインオプションは、SAS Deployment Wizardを実際に起動することなく、コマンドラインオプションを説明するメッセージウィンドウを表示します。

使用方法：

-help

例：

setup.exe -help

第4章 ホットフィックスを探し適用する

SAS 9.3の2回目のメンテナンス(SAS 9.3 TS1M2, Rev. 930_12w35)のリリースにおいて、SAS Deployment Wizardとホットフィックスの(取得、管理、適用)プロセスは、この章で解説している方法に変更されました。しかし、2回目のメンテナンスより前のリリースにおけるSAS Deployment Wizardを使用している場合、ホットフィックスのプロセスは変わりません。2回目のメンテナンス (Software Orderメールに、リビジョン (Rev.) が「12w35」と記載されています。これは2012年の35週目を意味しています) 以前のリリースのソフトウェアにホットフィックスを適用する詳細は、「付録C」を参照してください。

SAS 9.3の2回目のメンテナンス以降では、どのようなホットフィックスがソフトウェアに対して利用可能を判断しかつ適用するかについて、方法は2つあります。それは、ソフトウェアの初期インストールを行う際にホットフィックスを適用するか、それとも初期インストール後に適用するか、に依存します。この章では、両方の方法について個別のセクションで説明します。

初期インストールでホットフィックスを適用する

SAS 9.3の2回目のメンテナンスのリリース以降において、ソフトウェアをクリーンなSASHOMEに初期インストールする際、SAS Deployment Wizardはそのオーダーに含まれているどのようなホットフィックスもインストールします。ダウンロードされたオーダーには、SAS社が選択した、SAS Deployment Wizardが配置中にインストールするのが適切なホットフィックスが含まれています。

注意： オーダーをメディア (DVDなど) で受け取っている場合、最初はホットフィックスを含んでいません。

オーダーしたソフトウェアを受け取るダウンロードおよびメディア両方の方法において、ソフトウェアをインストールする準備が整っている場合 (SASソフトウェアデポを作成済み)、すでに受け取っているホットフィックスを更新 (リフレッシュ) し、インストール時に適用するのが適切な新しいホットフィックスを取得することができます。これを行なうには、SAS Deployment Wizardから、[配置タスクの選択] ページにおいて [このSASソフトウェアデポの管理] タスク、さらに [ホットフィックスの取得] を選択します。オーダーのダウンロードから時間が経過している状況では、初期インストールの前に上記で説明した方法でホットフィックスを更新することを推奨します。最新のホットフィックスを入手するには、SAS Deployment Wizardがインターネットにアクセス可能でなければなりません。

注意： メディアでオーダーを受け取った場合、最新のホットフィックスを入手するには、最初にSASソフトウェアデポを作成しなければなりません。それから上記で説明した方法でホットフィックスを更新します。

ソフトウェアをクリーンなSASHOMEに初期インストールする場合、ホットフィックスはこの方法を使用してインストールできます。ソフトウェアをSASHOMEにインストールした後は、下記に説明する方法を使用しなければなりません。初期インストール後の追加のソフトウェアのSASHOMEへの追加では、ホットフィックスはダウンロードもインストールも行われません。

注意： SAS 9.3の2回目のメンテナンスのSAS Download Managerを、そのメンテナンスリリース前に作成されたオーダーで使用する場合、ホットフィックスがダウンロードされます。しかし、そのオーダーは適切にこれらのホットフィックスを適用するデータを含んでいないので、初期インストール

ールではインストールされません。このような場合、下記に説明した手順を使用して、SAS Deployment Managerでホットフィックスを適用してください。

SAS Deployment Wizardには、ホットフィックス用のコマンドラインオプションがあります。「第3章 SAS Deployment Wizard : コマンドラインオプション」の「ホットフィックス」セクションを参照してください。

初期インストール後にホットフィックスを適用する

適用できるホットフィックスを探す

最初のオーダーに含まれているホットフィックスは、SAS社がインストールに安全に適用できると考えているホットフィックスです。しかし、インストールの完了後にのみ適用すべきホットフィックスがあるかもしれません。また、しばらく使用した後、ユーザーは使用しているソフトウェアに対してどのような新しいホットフィックスが利用可能なのかを調べたいと考えるかもしれません。

SASテクニカルサポートでは、「SAS Hot Fix Analysis, Download and Deployment Tool」を提供しています。このツールは、ソフトウェアの配置を診断し、そこから利用可能なホットフィックスの情報およびリンクを含むレポートを作成します。SAS Hot Fix Analysis, Download and Deployment Toolは、下記からダウンロードできます。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/HF2/SASHFADD.html>

このツールをダウンロードおよび使用する前に、同じ場所にある「Usage Guide」を必ず参照してください。

ホットフィックスを適用する

必要なホットフィックスをダウンロードしたら、SAS Deployment Managerを使用して、SASソフトウェアに適用してください。ホットフィックスのQuietインストールには、下記に説明するコマンドラインオプションを使用しなければなりません。

SAS Deployment Managerは、SASHOMEの¥SASDeploymentManager¥9.3フォルダにあります。

作業を開始する前に、ソフトウェアのインストールに使用した同じユーザーIDでログオンしていることを確認してください。SASサービスおよびプロセスを停止していることを確認してください。さらに、使用している配置に変更を行うので、ホットフィックスを適用する前に、バックアップを作成してください。

1. 使用しているオペレーティングシステムによって、SAS Deployment Managerの起動方法は異なります。該当する方法で起動してください。
 - Windowsユーザーは、sasdm.exeをダブルクリックしてください(使用しているのがWindows Vista、Windows 7、Windows Server 2008の場合、sasdm.exeを右クリックして、[管理者として実行]を選択してください)。
 - UNIXユーザーは、sasdm.shを実行してください。
 - z/OSユーザーは、sasdm.rexxを実行してください。64-bit z/OSを使用している場合、-z64コマンドラインオプションを付けて起動してください。

2. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
3. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] から、[ホットフィックスの適用] を選択します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
4. [ホットフィックスの適用] ページが表示されます。[Install SAS hot fix]、または[Configure SAS hot fix] のどちらか、または両方を選択します。[Configure SAS hot fix] を選択するには、すでに構成可能なホットフィックスをインストールしているか、または[Install SAS hot fix] を選択してなければなりません。[Install SAS hot fix] を選択したら、ダウンロードしたホットフィックスパッケージの場所をテキストボックスに入力するか、[参照] を使用して指定します。選択したら（およびインストールする場合はテキストボックスにダウンロード場所を入力したら）、[次へ] をクリックします。
5. SAS Deployment Managerが十分なディスクの空き容量があるか、ロックされたファイルがあるかを調べている間、[システムの確認] ページが表示されます。このウィンドウにファイルが表示された場合、ページに記載されている指示に従ってください。ファイルが表示されていない場合、または表示されていたファイルに対処した後、[次へ] をクリックして、処理を続けます。
6. 適用されるホットフィックスを説明する[ホットフィックス更新の確認] ページが表示されます。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
7. 手順4で[Configure SAS hot fix] を選択した場合、[SAS構成ディレクトリ/レベルの選択] ページが表示されます。このページで、SAS Deployment Managerが作成したリストから構成ディレクトリを選択できます。ここには、以前に構成した構成ディレクトリおよびレベルが表示されます。1つの構成ディレクトリが複数レベルで構成されている場合、その構成ディレクトリのレベルごとに複数回リストに表示されることに注意してください。構成ディレクトリおよびレベルを選択します。選択すると強調表示されます。

あるいは、[構成ディレクトリとレベルの入力] を選択して、構成ディレクトリを手動で指定することができます。[構成ディレクトリ] テキストボックスに手動で場所を入力するか、[参照] をクリックして選択します。ディレクトリの場所を入力したら、[構成レベル] 選択リストから使用する構成レベルを指定します。

注意：更新されたサービスを使用する前、ホットフィックスを構成するため、これら一巡の手順を各構成ディレクトリに対して一度実行してください。各構成ディレクトリに対して一度実行するには、手順4で[SASホットフィックスの構成] のみを選択してください。

構成ディレクトリの場所とレベルを指定したら、[次へ] をクリックして、処理を続けます。

8. 手順4で[Configure SAS hot fix] を選択した場合、[接続情報の指定] ページが表示されます。この構成ディレクトリで使用する、メタデータサーバーのユーザーIDおよびパスワードを入力します。SAS Deployment Managerは、構成プロパティファイルに基づいて、[ホスト名] および[ポート] テキストボックスに値を入力します。[ユーザーID] および[パスワード] フィールドに適切な情報を入力してください（必要に応じて、[ホスト名] および[ポート] も入力してください）。
情報が正しいことを確認したら、[次へ] をクリックして、処理を続けます。
9. 手順4で[Configure SAS hot fix] を選択した場合、[Select Product Configurations on Which to Apply Hot Fixes] ページが表示されます。表には、手順7で指定した、構成ディレクトリおよびレベルの構成

がリスト表示されます。各行には、容易に特定できるようにするため、[プロダクト構成] および [プロダクト名] が表示されています。[Configured Hot Fix] 列は、その行のプロダクトに対して構成されている最新のホットフィックスを示しています。その列が、「Not applicable」または「None configured」と表示されている場合、その構成に適用されているホットフィックスはありません。

[Available Hot Fix] 列は、その構成に対して適用できるパッケージディレクトリ（すなわち使用しているシステムで利用可能）の、最新のホットフィックスのリストです。この列が [Not applicable] と表示されている場合、その行の構成に対して、システムに適用できる新しいホットフィックスはありません。

注意： [Available Hot Fix] 列が「Not applicable」と表示されている場合、これはこのプロダクトに利用できるホットフィックスがまったくない、という意味ではありません。これは、手順4で指定したホットフィックスのディレクトリに、このプロダクトに適用できるホットフィックスがない、という意味になります。プロダクトに適用するホットフィックスがあると考えていたのにそれが見つからない場合、手順4に戻って異なるディレクトリを入力するか、ホットフィックスダウンロードページに戻って正しいホットフィックスをダウンロードする、のいずれかを行ってください。実際には、構成を必要とするホットフィックスは多くありません。ホットフィックスに構成の必要がなくても心配ありません。

[Available Hot Fix] 列にホットフィックスがある場合、[Status] 列にホットフィックスの状態が記載されています。「Up to date」は、最新のホットフィックスが構成されていることを示します。SASテクニカルサポートによって特に指示されないかぎり、再度最新のホットフィックスを構成するべきではありません。「Ready to configure」は、[Configured Hot Fix] 列に表示されているものより新しいホットフィックスがあることを意味し、そのホットフィックスはこのタスクで構成できます。

作業を行うプロダクト構成のチェックボックスを選択してください。[すべて選択] をクリックすると、リストのすべての構成が選択され、チェックマークが横に表示されます。[すべてクリア] をクリックすると、リスト中のすべての選択が解除されます。

作業を行う構成を選択したら、[次へ] をクリックして、作業を続けます。

10. [配置の要約] ページが表示され、SAS Deployment Managerがこれから行う手順のリストが表示されます。[開始] をクリックして、リストの作業を開始します。
11. SAS Deployment Managerがホットフィックスを適用していることを示すウィンドウが表示されません。作業が完了したら、[次へ] をクリックします。
12. [ホットフィックス更新完了] ページが表示されます。このページには、何が適用されたか、および構成された各ホットフィックスのログが記載されています。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
13. [追加リソース] ページが表示されます。掲載されているリストのリンクは、SASソフトウェアの配置に関する重要なドキュメントにリンクしています。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。
14. ホットフィックスを構成したら、ログの場所、および必要な手動による追加の構成手順を記載したHTMLのページが表示されます。アップデートしたソフトウェアを実行する前に、記載された手動による構成手順を行う必要があります。

ホットフィックスのコマンドラインオプション

SAS Deployment Managerで使用する、いくつかのコマンドラインオプションがあります。

-reinstallhotfix

デフォルトでは、SAS Deployment Managerによるホットフィックスのインストール後、ホットフィックスを含んでいることを示すように配置レジストリが更新されます。その後のSAS Deployment Managerの使用では、ホットフィックスを配置レジストリと照合し、以前にインストールしたホットフィックスは再インストールされません。SAS Deployment Managerがホットフィックスをすでにマシンにインストールしたことを無視し、他のインストールパスにそれらを入れたいのならば、-reinstallhotfixコマンドラインオプションを使用してください。

例：

```
sasdm.exe -reinstallhotfix
```

-skipusercheck

ホットフィックスのインストーラは、ホットフィックスを適用するユーザーIDが、最初の配置を行ったユーザーIDと同じであることを確認します。-skipusercheckコマンドラインオプションは、他のユーザーIDがこの作業を行えるように、ホットフィックスのインストーラがこの確認作業をスキップするようにします。そのログインユーザーが、配置を行ったユーザーと同じ権限を持つ必要があることに注意してください。そうでない場合、権限の問題が発生します。しかし、権限が適切に設定されている場合、他のユーザーIDでインストールされたファイルをアップデートできます。

UNIXでは、SASツリー全体のオーナーが、インストールに使用する新しいIDに変更されなければならないことに注意してください。それには、次のコマンドを発行します。

```
chown -Rh <new_userid>:<group> <SASHOME>
```

例：

```
sasdm.exe -skipusercheck
```

z/OSでUNIXシステムサービスを使用している場合も、SASツリー全体のオーナーが、インストールに使用する新しいIDに変更されなければならないことに注意してください。それには、次のコマンドを発行します。

```
chown -Rh <new_userid>:<group> <SASHOME>
```

ホットフィックスをインストールするユーザーIDは、既存のインストールと同じ新しいデータセットを作成し、既存のデータセットを変更する権限がなければなりません。また、-nojobsubmitコマンドラインオプション（下記で説明）を使用しない場合、ホットフィックスインストーラは、install.propertiesファイルに格納されているデータ（JOBカードおよびユーザーID）に基づき、元のインストーラIDでインストールジョブを自動的に実行します。

例：

```
sasdm.rexx -skipusercheck
```

-hotfixdir

デフォルトでは、ランチャースクリプトは、ホットフィックスが<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/Newにあるものとして探します。- hotfixdirオプションは、ホットフィックスのデフォルトの場所として、異なるディレクトリを指定できます。- hotfixdirオプションの引数には、適用するホットフィックスのディレクトリパスを指定しなければなりません。

例：

```
sasdm.exe -silenthotfix -hotfixdir "C:¥Downloads¥HotFix"
```

注意：z/OSに複数のホットフィックスをインストールする場合、すべてのホットフィックスが、ホットフィックス名の最初の英数字値による名前のステージングホットフィックスライブラリにインストールされます。たとえば、名前がA01およびB06である2つのホットフィックスがある場合、ステージング名はA01になり、このイメージの中にA01およびB06の内容が含まれます。

-console (UNIXおよびz/OSのみ)

UNIXまたはz/OSのX11サーバー上で作業することを望まない場合、ヘッドレスシステムを使用することにより、ホットフィックスをインストールするのにSAS Deployment Managerをコンソールモードで使用できます。コンソールモードは、ミドル層では使用できません。コンソールモードを使用すると、SASソフトウェアの配置における各ダイアログが、テキストで表示されます。

注意：アングルブラケット（大なり小なり）を含む一連の入力を求められた場合（たとえば、Enter <q> to quit）、それらの記号も含めて入力しなければなりません。

また、-consoleコマンドラインオプションは、SAS Deployment Managerの出力のサイズを指定する2つのオプションをサポートしています。出力を一時停止（ポーズ）する行数を指定するには、-pagesize #を使用します。また、行の折り返しの文字数を指定するには、-pagewidth #を使用します。-pagesizeと-pagewidthは、他のコマンドオプションと共に使用できません。

z/OSマシン上のホットフィックスのインストールには、デフォルトでX11サーバーを必要とすることに注意してください。X11サーバーが利用できない場合、-consoleコマンドラインオプションを使用しなければなりません。

使用方法：

```
-console [-pagesize #] [-pagewidth #]
```

UNIXの例

```
sasdm.sh -console -pagesize 20 -pagewidth 50
```

z/OSの例

```
sasdm.rexx -console -pagesize 20 -pagewidth 50
```

-silenthotfix (WindowsおよびUNIXのみ)

ホットフィックスのインストール（上記の手順3以下）をこのモードで実行し、ユーザーインターフェイスを表示しません。このオプションは、特に、企業全体に及ぶ配置を行う場合に便利です。ホットフィックスが、デフォルトの場所（<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/New）ではなく他の場所に格納している場合、上記で説明した-hotfixdirオプションを使用して、ホットフィックスの場所を指定する必要があります。ことに注意してください。

例：

```
sasdm.exe -silenthotfix
```

注意：この -silenthotfix コマンドラインオプションは、ホットフィックスのインストールのみ行います。インストールされたホットフィックスが構成も必要な場合、SAS Deployment Manager のログに表示されます。ホットフィックスの構成を非対話的（サイレント）で行うには、応答ファイルを作成し、-quiet オプションで実行しなければなりません。応答ファイルおよび -quiet コマンドラインオプションの詳細は、「第7章 - SAS Deployment Manager：コマンドラインオプション」の「記録と再生」を参照してください。

ホットフィックスで構成が必要な場合、SAS Hot Fix Analysis, Download and Deployment Tool によって作成されたレポートに記載されているホットフィックスのダウンロードサイトに示されます。

-z64 (z/OSのみ)

64-bit SAS ソフトウェアにホットフィックスをインストールする場合、sasdm.rexx に、-z64 コマンドラインオプションを付けなければなりません。

例：

```
sasdm.rexx -z64
```

注意：ホットフィックスがデフォルトの場所がない場合、インストールするホットフィックスの場所を、上記で説明した -hotfixdir オプションを使用して指定しなければなりません。

-nojjobsubmit (z/OSのみ)

ホットフィックスのインストーラは、ホットフィックスのアプリケーションを完了するのに、バッチジョブをサブミットしません。下記に、ユーザー自身でバッチジョブを編集およびサブミットする、-nojjobsubmit コマンドラインオプションを使用する場合のいくつかの理由を示します。

- サイトで JES3（JES2 ではなく）を使用している。
- FTP サーバーが、JESINTERFACELEVEL=2 で構成されている。
- SAS のインストーラ ID が、FTP の使用する場合は認証されない。
- JCL にサイト固有の修正を行う必要がある、またはサブミットする前に JCL を調べることを希望している。
- ジョブ名が、インストールを行うユーザー ID に 1 つの文字または数字の接尾辞が付けられたものになる FTP JES インターフェイスの必要条件が、サイトのジョブ名の条件と合致しない。

これらの条件のいずれかにサイトが該当する場合、-nojjobsubmit コマンドラインオプションを使用しなければなりません。

-nojjobsubmit オプションを使用する場合、実行するホットフィックスジョブのリストは、<high-level-qualifier>.<hotfix id>.INSTALL.CNTL の JOBINDEX メンバーに記述されます。リストの最初のジョブをサブミットすると、HOTFIXn ジョブの全体が自動的に実行されます（各ジョブが次のジョブをサブミットします）。

注意：ホットフィックス CNTL ライブラリを、ジョブのサブミット後に編集（Edit）モードで開くことはできません。いくつかのホットフィックスジョブは、アップデートにおいてその CNTL ライブラリに対して排他的アクセスを必要とします。

PROMOTEジョブは、この一連の一部として実行されません。このジョブは、ステージングデータセットがプロダクションに移動する準備が整うまでサブミットされるべきではありません。プロダクションにプロモートする前にホットフィックスをテストするには、<high-level-qualifier>.<E80002>.PROCLIB、CLIST、SASRXでそれぞれ作成されるJCL、CLIST、REXXを使用できます。これらは、プロダクションのデータセットなる前に、ステージングデータセットを連結します。

例：

```
sasdm.rexx -nojobsubmit
```

-hotfixupdate (z/OSのみ)

デフォルトでは、オーダーに含まれるホットフィックスは、クリーンなSASHOMEのみにインストールできます。最初のオーダーのインストール以後に、オーダーに含まれるホットフィックスをインストールする場合、そのオーダーに対して-hotfixupdateコマンドラインオプションを使用します。

z/OSのメタデータサーバーを含むインストールには、SAS Deployment Wizardの2つのパス(1つは64-bit z/OS、もう1つは31-bit z/OS) が必要です。つまり、64-bitのインストール中にホットフィックスをインストールしたら、既存のSASHOMEディレクトリへの31-bitのインストール中に、ホットフィックスのインストールをSAS Deployment Wizardに行なわせなければなりません。31-bitのインストールに対して - hotfixupdate コマンドラインオプションを使用すると、既存のSASHOMEに31-bitのホットフィックスを含む31-bitのインストールを行なうことができます。それにより、SAS Deployment Managerによるホットフィックスの適用をしないで済みます。

例：

```
sasdm.rexx -hotfixupdate
```

z/OSにおける追加の注意点

ホットフィックスのインストールが&prefix.<hot fix number>.LIBRARYを作成し、それらが、SASHOST、SASXAL、SASXA1モジュールのいずれかを含んでいる場合、および元のCNTLデータセットのBAOPTS1メンバーを使用してDEFAULT OPTIONS TABLEをアセンブルすることによってSASシステムオプションを設定している場合、ホットフィックスの適用後、このテーブルを再アセンブルしなければなりません。このテーブルの再アセンブルを行うには、次の手順を実行します。

1. 元のCNTLデータセットのBAOPTS1メンバーを編集します。
2. 新しい<high-level-qualifier>.LIBRARYを示すように、3つすべてのKINK.EDITステップでSYSLMOD DDを変更します。
3. BAOPTS1を再実行します。

ホットフィックスのインストーラが&prefix.<hot fix number>.LIBRARYを作成し、SASLPAのエントリポイントで実行したら、新しいモジュールがLPAにインストールされているかを確認するには、アンロードされたライブラリの中を参照する必要があります。そうするのなら、それらを新しいモジュールでそれらを置き換え、LPAを再読み込みする必要があります。

『Configuration Guide』では、LPAへのインストールで推奨されるモジュールは、次のようになります。

SASXAL

SABXSPL
SABXDML
SABDS
SABSCLL
SABDBGM
SABZPLH
SABXGPH

BNDLSUFFIXオプションを使用する場合、LPAで適切にモジュールの改名をしなければならないことに注意してください。LPA関連の構成およびBNDLSUFFIXオプションの使用の詳細な情報は、『Configuration Guide for SAS 9.3 Foundation for z/OS』の「Installing SAS 9.3 Foundation into the LPA/ELPA」を参照してください。

ホットフィックスのログ

ホットフィックスのインストールログは、<SASHOME>%InstallMisc%InstallLogs%<IT_date-and-time-stamp>.log に作成されます（たとえば、%sas93%InstallMisc%InstallLogs%IT_2011-07-19-13.54.19.log）。1つのホットフィックスをインストールする各作業に対して、そのインストールプロセスに関する詳細な情報が記載された1つの新しいログファイルが作成されます。

さらに、ホットフィックスのインストールは、SAS Deployment Registryに記録されます。SAS Deployment Registryのレポートの詳細は、「第8章 付属ツール」を参照してください。

第5章 SAS Deployment Wizard : 基本的なトラブルシューティング

SAS Deployment Wizardがエラーメッセージなしで停止する

ソフトウェアをインストールしている際、SAS Deployment Wizardがエラーメッセージを表示しないで停止する場合があります。そのような問題に対して、下記のトラブルシューティングのリストが該当するか検討してください。

- メディアからインストールしている場合、DVDメディアが損傷していませんか？
DVDに傷や汚れがないかを確認してください。柔らかな布で拭いて綺麗にしてから、再度試みてください。それでも、なお問題があるようでしたら、ローカルドライブに空のフォルダを作成し、最初のDVDの内容全体をコピーしてください。DVDからローカルドライブへのコピー中にエラーが発生した場合、新しいDVDを入手してください。コピーに問題がなかったら、新しいフォルダ内のsetup.exeを起動するか、他のマシン上でインストールを試みてください。他のマシン上でインストーラが起動しない場合、新しいDVDを入手してください。
- 以前にSASソフトウェアを、現在のマシンにインストールしていませんか？
以前にSASソフトウェアをインストールしている場合、ソフトウェアの再インストールを行う際にすべてのSASプログラムを終了させたことを確認してください。
- アンチウイルスソフトウェアが起動していませんか？
インストールを開始する前に、すべてのアンチウイルスソフトを閉じ、非アクティブにしてください。
- 使用しているアカウントに、適切な権限がありますか？
Windowsでは、インストールに使用するアカウントは管理者権限が必須です（インストールするマシンのローカルのAdministrator、またはAdministratorグループのメンバー）。詳細は、<http://support.sas.com/kb/5/055.html>を参照してください。
UNIXでは、インストールに使用するアカウントにsasアカウントを使用してください。rootを使用するべきではありません。
- インストールを、SASソフトウェアデポから行っていますか。それともオリジナルのCDから行っていますか？
最初にインストールを試みたのとは異なるメディアから、再度インストールしてみてください。
- あるマシン上のSASソフトウェアデポを他のマシンにコピーする際に問題が発生する可能性があることが報告されています。SASソフトウェアデポをコピーする代わりに、SAS Deployment Wizardを使用して、そのマシン上にSASソフトウェアデポを作成してください。SAS Deployment Wizardを使用しないで、SASソフトウェアデポをある場所から他の場所にすでにコピーしている場合、オリジナルのSASソフトウェアデポからインストールしてみてください。

SAS Deployment Wizardのログファイル

SAS Deployment Wizardは、実行中にログファイルを作成します。ログファイルには、成功した操作、および失敗した操作の情報の両方が含まれています。これらのログに含まれているこれらの情報は、ユ

ユーザーが理解するには複雑すぎますが、SASテクニカルサポートに問い合わせる際に必要となる重要な情報が含まれています。

このログファイルは、デフォルトではオペレーションシステムごとに次の場所に含まれています。

Windows

Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008では、次の場所になります。

```
%userprofile%\%appdata%\local\sas\sasdeploymentwizard%
```

Windows XP、Windows Server 2003では、次の場所になります。

```
%userprofile%\%Local Settings%\Application Data\SAS\SASDeploymentWizard%
```

いくつかのファイルおよびフォルダは、デフォルトで隠し属性が設定されているので、表示の設定を変更する必要があります。Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008では、次のように変更します。

1. [整理] - [フォルダーと検索オのプション] - [表示]
2. [ファイルとフォルダーの表示] から、[隠しファイル、隠しフォルダ、および隠しドライブを表示する] を選択します。
3. [登録されている拡張子は表示しない] および [保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない] の選択を外します。

Windows XP、Windows Server 2003では、次のように変更します。

1. [ツール] - [フォルダオプション] - [表示]
2. [ファイルとフォルダの表示] から、[すべてのファイルとフォルダを表示する] を選択します。
3. [登録されている拡張子は表示しない] および [保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない] の選択を外します。

UNIX

```
$HOME/.SASAppData/SASDeploymentWizard/SDW_<year-month-day-hour-minutes-seconds>.log
```

インストールのログファイル

SASソフトウェアの各コンポーネントをインストールすると、そのコンポーネントのインストールに関する情報を含んだ個別のログファイルが作成されます。これらのログファイルはSAS Deployment Wizardのログファイルとは異なります。インストールのログファイルでは、各コンポーネントの詳細が含まれていますが、SAS Deployment Wizardのログファイルには、各コンポーネントのインストールが成功したか失敗したかについて記録されているだけです。インストール中に問題が発生した場合、SASテクニカルサポートに問い合わせるにはインストールのログファイルが必要になります。

インストールのログファイルは、<SASHOME>\%InstallMisc%\InstallLogsにあります。

第6章 SAS Deployment Managerタスク

SAS Deployment Managerは、各SASソフトウェアのオーダーに付属しているツールです。このツールを使用して、いくつかの管理および構成作業を行うことができます。SAS Deployment Managerは、SASHOMEの¥SASDeploymentManager¥9.3フォルダにあります。

作業を開始する前に、インストールに使用した同じユーザーIDでログオンしていることを確認してください。使用しているオペレーティングシステムによって、SAS Deployment Managerの起動方法は異なります。該当する方法で起動してください。

- Windowsユーザーは、sasdm.exeをダブルクリックしてください(Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008を使用している場合、sasdm.exeを右クリックして、[管理者として実行]を選択してください)。
- UNIXユーザーは、sasdm.shを実行してください。
- z/OSユーザーは、sasdm.rexxを実行してください。64-bit z/OSを使用している場合、- z64コマンドラインオプションを付けて起動してください。

以下のセクションでは、SAS Deployment Managerのタスクと、どのようにそれらを行うかについて説明しています。場合によっては、そのタスクがプラン配置 (planned deployment) に関係しているかもしれません。その場合、それらのタスクのための適切なドキュメントへの参照も、下記に記載されています。

管理タスク

パスワードの更新 (Update Passwords)

既存の構成において、特定のユーザーのパスワードを更新するには、このオプションを選択してください。詳細は、『SAS 9.3 Intelligence Platform Security Administration Guide』の「Update a Managed Password」を参照してください。このドキュメントは、下記にあります。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/index.html#intell93>

Webアプリケーションの再ビルド (Rebuild Web Applications)

既存の構成において、以前に構成したWebアプリケーションを再ビルドするには、このオプションを選択してください。詳細は、『SAS 9.3 Intelligence Platform: Middle-Tier Administration Guide』の「Redeploying the SAS Web Applications」を参照してください。このドキュメントは、下記にあります。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/index.html#intell93>

SASソフトウェアのアンインストール (Uninstall SAS Software) (グラフィカルユーザーインターフェイス アンインストールツール)

グラフィカルユーザーインターフェイス アンインストールツールは、アンインストールする過程をウィザード形式で表示するインターフェイスを提供します。また、SASHOMEにインストールしている、ア

ンインストールするプロダクトを選択することができます。以下に、グラフィカルユーザーインターフェイス アンインストールツールを使用して、アンインストールできないプロダクトのリストを示します。

- 個別のSAS Foundationプロダクトを、選択してアンインストールできません。SAS Foundationは、MVAプロダクトの一群としてのみアンインストールできます。
- z/OS版SAS Foundationのアンインストールには、使用できません。
- サードパーティソフトウェアのアンインストールには、使用できません。これには、JavaやMicrosoft Runtime Componentsのようなシステム必要条件のパッケージも含まれます。

グラフィカルユーザーインターフェイス アンインストールツールは、コマンドラインでオプションを使用して起動することによりQuietアンインストールもサポートします。

現在、グラフィカルユーザーインターフェイス アンインストールツールは、次のプラットフォームをサポートしています。

- すべてのWindowsプラットフォーム
- すべてのUNIXプラットフォーム
- z/OSのための、仮想マルチプラットフォームプロダクトのアンインストールを行うUNIXシステムサービス

さらに、Windowsプラットフォームでは、グラフィカルユーザーインターフェイス アンインストールツールを下記の手順1および2を行って起動した画面を、コントロールパネルの[プログラムの追加と削除]経由で表示できます (Windows Vista以降では、追加と削除の機能は[プログラムのアンインストール]、クラシック表示の場合は[プログラムと機能])。追加と削除の機能では、SAS 9.3を選択してください。

SASソフトウェアをシステムから削除する手順は、次のとおりです。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[SASソフトウェアのアンインストール]が選択されていることを確認します。[次へ]をクリックして、処理を続けます。
3. [アンインストールするSASプロダクトの選択] ページが表示されます。アンインストールするすべてのプロダクトが選択されていることを確認します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
4. [システムの確認] ページが表示されます。SAS Deployment Managerは、削除するファイルにシステムによって使用されているファイルがないことを確認します。このウィンドウにファイルが表示された場合、ページに記載されている指示に従ってください。ファイルが表示されていない場合、または表示されていたファイルが対処された後の場合、[次へ] をクリックして、処理を続けます。
5. [要約] ページに、どのプロダクトが削除されるのかが表示されます。[開始] をクリックして、SASソフトウェアの削除を開始します。

6. 削除中であることを示す、[ソフトウェアの削除中]ページが表示されます。SAS Deployment Managerの処理が終了すると、[配置の完了]ページが開き、削除されたプロダクトのリストが表示されます。[完了]をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

アンインストールツールの終了後、いくつかのファイルおよびディレクトリがシステム上に残ります。

- <SASHOME>%InstallMisc%InstallLogsには、インストールおよびアンインストールのログファイルが含まれています。これらは、アンインストールにおける問題のトラブルシューティングのために残されています。アンインストールの問題の調査において、場合によっては、インストールログファイルはアンインストールのログファイルと同じくらい重要です。
- <SASHOME>%ReportFontsforClients%9.3\SystemFonts%backupには、インストール中に置き換えられたフォントを、元の状態に戻すことができるようにフォントがバックアップされています。
- <SASHOME>%InstallMisc%uninstall.xmlは、アンインストールしているホットフィックスについての情報を保存するのに使用されます。
- <SASHOME>%InstallMisc%cleanup.batは、メンテナンスが適用された後、バックアップファイルを削除するのに使用されます。
- <SASHOME>%deplymntregは、配置レジストリを格納します。

また、ほとんどのDataFluxソフトウェアは、アンインストールウィザードでは削除できず、DataFluxのツールを使用して削除する必要があります。

最後に、このアンインストールツール自身は、残りのSASソフトウェアをアンインストールの完了後もシステム上に残ります。すべてのSASソフトウェアを完全に削除するには、SAS Deployment Managerのディレクトリ、およびすべてのそのコンテンツをSASHOMEから削除してください。

注意：Windows版のSAS 9.3およびSAS 9.4では、SAS 9.3のSASHOMEに格納されているいくつかのコンポーネントを共有しています。SAS 9.3は削除するがSAS 9.4の配置はそのまま残す場合、SAS Deployment Managerによる作業の完了後、SAS 9.3のSASHOMEから、いかなるファイルも手動で削除しないでください。

Windowsの場合は、[スタート]メニューの[SAS Deployment Manager]の項目も削除してください。

注意：Microsoft Windows Vista/7/2008の場合のショートカットの場所は、C:%ProgramData%Microsoft%Windows%Start Menu%Programs%SAS%SAS Deployment Managerにあります。Microsoft Windows XP/2003の場合のショートカットの場所は、C:%Users%All Users%SAS%SAS Deployment Managerにあります。

SASソフトウェアのQuietアンインストール

Quietモードのアンインストールでは、SAS Deployment Managerを対話的に実行する場合の応答を、ユーザーが不在でも自動的に行うことができます。これは、ユーザーが立ち会わない状況で実行することを想定しています。

Quietアンインストールを行うには、「第7章 SAS Deployment Manager : コマンドラインオプション」の「記録と再生」の「記録モード」に従って、最初に応答ファイルを作成します。応答ファイルを作成したら、「Quiet再生モード」の指示に従って、マシン上でQuiet配置を行います。

既存の構成の削除 (Remove Existing Configuration)

既存の構成の内容を削除するには、このオプションを選択してください。インストールされているプロダクトは、削除されません。詳細は、『SAS 9.3 Intelligence Platform: Installation and Configuration Guide』の「Removing a SAS Configuration」を参照してください。このドキュメントは、下記にあります。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/index.html#intell93>

メタデータのSIDファイルの更新 (Update SID File in Metadata)

メタデータのSIDファイルを更新しSASミドル層プロダクトへライセンスを適用するには、このオプションを選択してください。SAS Foundationソフトウェアは、このオプションの影響を受けません。詳細は、『SAS 9.3 Intelligence Platform: Installation and Configuration Guide』の「Updating the SID File in Metadata for SAS Solutions」を参照してください。このドキュメントは、下記にあります。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/index.html#intell93>

ホスト名参照の更新 (Update Host Name References)

既存の構成において、ホスト名の参照を更新するには、このオプションを選択してください。詳細は、『SAS 9.3 Intelligence Platform: System Administration Guide』の「Using the SAS Deployment Manager to Update Host Name References」を参照してください。このドキュメントは、下記にあります。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/index.html#intell93>

ホットフィックスの適用 (Apply Hot Fixes)

ホットフィックスをどのように探し、SAS Deployment Managerでインストールするのかについての詳細は、第4章の「ホットフィックスの適用」セクションを参照してください。

既存の構成のアップデート (Update Existing Configuration)

アップデート（更新）またはアップグレードしたSASプロダクトを構成するには、このオプションを選択してください。詳細は、『SAS 9.3 Intelligence Platform: Installation and Configuration Guide』の「Configure Updated or Upgraded SAS Products」を参照してください。このドキュメントは、下記にあります。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/onlinedoc/intellplatform/index.html#intell93>

SAS/ACCESSの設定

SAS/ACCESS Interface to Greenplumの設定 (UNIXのみ)

このオプションは、SAS/ACCESS Interface to GreenplumをUNIX上にインストールしている場合のみ利用可能です。このオプションを選択して、SAS/ACCESS Interface to Greenplumで必要になる、[DataDirect Greenplum](#) ドライバの場所を指定してください。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。

2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[SAS/ACCESS Interface to Greenplumの構成 (Configure SAS/ACCESS Interface to Greenplum)] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [[DataDirect Greenplum](#)ドライバディレクトリの指定 (Specify [DataDirect Greenplum](#) Drivers Directory)] ページが表示されます。テキストボックスに、[DataDirect Greenplum](#)ドライバの場所を入力します。[参照] をクリックして、保存場所を探して入力することもできます。その場所をテキストボックスに入力したら、[次へ] をクリックします。
4. [要約] ページに、これから構成されるSAS/ACCESS Interface to Greenplumが表示されます。[開始] をクリックして、構成を開始します。
5. [要約] ページが[構成の完了] に変わり、SAS/ACCESS Interface to Greenplumの横に緑のチェックマークが付きます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQLの設定 (UNIXのみ)

このオプションは、SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQLをUNIX上にインストールしている場合のみ利用可能です。このオプションを選択して、SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQLで必要になる、Microsoft SQL Server ODBCドライバの場所を指定してください。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQLの構成 (Configure SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQL)] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [Microsoft SQL Server ODBCドライバディレクトリの指定 (Specify Microsoft SQL Server ODBC Drivers Directory)] ページが表示されます。テキストボックスに、Microsoft SQL Server ODBCドライバの場所を入力します。[参照] をクリックして、保存場所を探して入力することもできます。その場所をテキストボックスに入力したら、[次へ] をクリックします。
4. [要約] ページに、これから構成されるSAS/ACCESS Interface to Microsoft SQLが表示されます。[開始] をクリックして、構成を開始します。
5. [要約] ページが[構成の完了] に変わり、SAS/ACCESS Interface to Microsoft SQLの横に緑のチェックマークが付きます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

SAS/ACCESS Interface to MySQLの設定 (UNIXのみ)

このオプションは、SAS/ACCESS Interface to MySQLをUNIX上にインストールしている場合のみ利用可能です。このオプションを選択して、SAS/ACCESS Interface to MySQLで使用するMySQLのバージョンを指定してください。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[SAS/ACCESS Interface to MySQLの構成 (Configure SAS/ACCESS Interface to MySQL)] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を続けます。

3. [MySQLソフトウェアのバージョンの選択 (Select MySQL Software Version)] ページが表示されます。使用しているMySQLのバージョンを選択してください。[次へ] をクリックして、処理を継続します。
4. [要約] ページに、これから構成されるSAS/ACCESS Interface to MySQLが表示されます。[開始] をクリックして、構成を開始します。
5. [要約] ページが[構成の完了] に変わり、SAS/ACCESS Interface to MySQLの横に緑のチェックマークが付きます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

SAS/ACCESS Interface to Oracleの設定 (UNIXのみ)

このオプションは、SAS/ACCESS Interface to OracleをUNIX上にインストールしている場合のみ利用可能です。このオプションを選択して、SAS/ACCESS Interface to Oracleで使用するOracleのバージョンを指定してください。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[SAS/ACCESS Interface to Oracleの構成 (Configure SAS/ACCESS Interface to Oracle)] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を継続します。
3. [Oracleソフトウェアのバージョンの選択 (Select Oracle Software Version)] ページが表示されます。使用しているOracleのバージョンを選択してください。[次へ] をクリックして、処理を継続します。
4. [要約] ページに、これから構成されるSAS/ACCESS Interface to Oracleが表示されます。[開始] をクリックして、構成を開始します。
5. [要約] ページが[構成の完了] に変わり、SAS/ACCESS Interface to Oracleの横に緑のチェックマークが付きます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

SAS/ACCESS Interface to Sybaseの設定 (UNIXのみ)

このオプションは、SAS/ACCESS Interface to SybaseをUNIX上にインストールしている場合のみ利用可能です。このオプションを選択して、SAS/ACCESS Interface to Sybaseで使用するSybaseのバージョンを指定してください。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[SAS/ACCESS Interface to Sybaseの構成 (Configure SAS/ACCESS Interface to Sybase)] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を継続します。
3. [Sybaseソフトウェアのバージョンの選択 (Select Sybase Software Version)] ページが表示されます。使用しているSybaseのバージョンを選択してください。[次へ] をクリックして、処理を継続します。

4. [要約] ページに、これから構成されるSAS/ACCESS Interface to Sybaseが表示されます。[開始] をクリックして、構成を開始します。
5. [要約] ページが[構成の完了] に変わり、SAS/ACCESS Interface to Sybaseの横に緑のチェックマークが付きます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

SAS/IntrNet サービスタスク

この選択は、このマシン上にSAS/IntrNetをインストールしている場合に有効です。

ソケットサービス (Socket Service) の作成

ソケットサービスは、アプリケーションサーバーを継続的に実行し、新しい要求 (リクエスト) を待ち受け、使用しているプロトコル (TCP/IPソケット) を参照することによって、サーバーとアプリケーションブローカー間の通信を行います。この種のサービスを使用することにより、多くのサーバーを同時に実行でき、アプリケーションブローカーのロードのバランスを保もたせます。ソケットサービスを構成するには、このオプションを選択してください。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[Socket Serviceの作成] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [サービス名の指定] ページが表示されます。ページに表示されるガイドラインに基づいて、テキストボックスにソケットサービス名を入力します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
4. [サービスディレクトリの指定] ページが表示されます。テキストボックスに、使用するソケットサービスが保存されている場所を入力します。[参照] をクリックして、保存場所を探して入力することもできます。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
5. [サービスポートの指定] ページが表示されます。テキストボックスに、ソケットサービスを構成するサーバーのポートを入力します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
6. [管理者パスワードの指定] ページが表示されます。ソケットサービスの管理者をパスワードで保護するには、[パスワード] テキストボックスと [パスワードの確認] テキストボックスに、パスワードを入力します。パスワードを指定しない場合、ブランクのままにします。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
7. [要約] ページが表示され、SAS Deployment Managerがこれから行う作業の説明が表示されます。[開始] をクリックして、この作業を開始します。
8. 作業が実行中であることを示す、[配置の進捗 (Deployment in Progress)] ページが表示されます。SAS Deployment Managerの処理が終了すると、[配置の完了] ページが開き、行われた内容のリストが表示されます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

起動サービス (Launch Service) の作成

起動サービスは、各要求 (リクエスト) のために新しいサーバーを起動します。この方式は、アプリケーションサーバーの起動のためソケットサービスよりも時間がかかりますが、管理するのがより容易で、セキュリティにおいてもいくつかの有利な面があります。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[Create Launch Serviceの作成] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [サービス名の指定] ページが表示されます。ページに表示されるガイドラインに基づいて、テキストボックスに起動サービス名を入力します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
4. [サービスディレクトリの指定] ページが表示されます。テキストボックスに、使用する起動サービスが保存されている場所を入力します。[参照] をクリックして、保存場所を探して入力することもできます。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
5. [要約] ページが表示され、SAS Deployment Managerがこれから行う作業の説明が表示されます。[開始] をクリックして、この作業を開始します。
6. 作業が実行中であることを示す、[配置の進捗 (Deployment in Progress)] ページが表示されます。SAS Deployment Managerの処理が終了すると、[配置の完了] ページが開き、行われた内容のリストが表示されます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

ロードマネージャ (Load Manager) の構成

アプリケーションロードマネージャ (Application Load Manager) は個別の、ネットワーク上のアプリケーションディスパッチャーのリソースの配布を拡張するのに使用される、オプションのプロセスです。インストールすると、すべてのアプリケーションサーバーの状態を記録し、使用可能なサーバーの個別のダイナミックプールを管理します。これらの機能は、ロードマネージャが、アプリケーションディスパッチャーの要求を最も効率的に配布することを可能にします。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[Load Managerの構成] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [ポートの指定] ページが表示されます。テキストボックスに、ロードマネージャで使用するポート名またはポート番号を入力します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
4. [要約] ページが表示され、SAS Deployment Managerがこれから行う作業の説明が表示されます。[開始] をクリックして、この作業を開始します。
5. 作業が実行中であることを示す、[配置の進捗 (Deployment in Progress)] ページが表示されます。SAS Deployment Managerの処理が終了すると、[配置の完了] ページが開き、行われた内容のリストが表示されます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

プールサービスの作成

アプリケーションロードマネージャを使用して、プールサービスは待機ジョブを処理するのに、必要に応じてサーバーをプールから起動します。ジョブが完了すると、サーバーは新しい要求を受け付けることができるようになります。任意のアイドル時間がタイムアウトすると、サーバーはシャットダウンします。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[プールサービスの作成] を選択してください。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [サービス名の指定] ページが表示されます。ページに表示されるガイドラインを使用して、テキストボックスにプールサービス名を入力します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
4. [サービスディレクトリの指定] ページが表示されます。テキストボックスに、使用するプールサービスが保存されている場所を入力します。[参照] をクリックして、保存場所を探して入力することもできます。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
5. [管理者パスワードの指定] ページが表示されます。プールサービスの管理者をパスワードで保護するには、[パスワード] テキストボックスと [パスワードの確認] テキストボックスに、パスワードを入力します。パスワードを指定しない場合、ブランクのままにします。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
6. [要約] ページが表示され、SAS Deployment Managerがこれから行う作業の説明が表示されます。[開始] をクリックして、この作業を開始します。
7. 作業が実行中であることを示す、[配置の進捗 (Deployment in Progress)] ページが表示されます。SAS Deployment Managerの処理が終了すると、[配置の完了] が開き、行われた内容のリストが表示されます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

スポーナの構成 (UNIXのみ)

SASスポーナは、接続しているクライアントの代わりに、新しいアプリケーションサーバーを起動します。スポーナは、サーバーの単一のポートに割り当てられ、サーバーに接続する要求を待ち受けます。このスポーナは、プールサービスと共に使用します。この機能はオプションです。アプリケーションサーバーがロードマネージャと同じマシンにない場合、アプリケーションサーバーを起動するのにスポーナを使用しなければなりません。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] の下の、[スポーナの構成] を選択します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [ポートの指定] ページが表示されます。テキストボックスに、スポーナで使用するポート名またはポート番号を入力します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
4. [サービスディレクトリの指定] ページが表示されます。テキストボックスに、使用するスポーナが保存されている場所を入力します。[参照] をクリックして、保存場所を探して入力することもできます。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
5. [要約] ページが表示され、SAS Deployment Managerがこれから行う作業の説明が表示されます。[開始] をクリックして、この作業を開始します。

6. 作業が実行中であることを示す、[配置の進捗 (Deployment in Progress)] ページが表示されます。SAS Deployment Managerの処理が終了すると、[配置の完了] ページが開き、行われた内容のリストが表示されます。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

第7章 SAS Deployment Manager : コマンドラインオプション

この章では、SAS Deployment Managerで使用できるコマンドラインオプション、およびSASソフトウェアのQuietアンインストールについて解説しています。

Quiet配置 (Quiet Deployment)

Quietモードの配置では、SAS Deployment Managerを対話的に実行する場合の応答を、ユーザーが不在でも自動的に行うことができます。これは、ユーザーが立ち会わない状況で実行することを想定しています。

Quiet配置を行うには、下記の「記録と再生」の「記録モード」に従って、最初に応答ファイルを作成します。応答ファイルを作成したら、下記の「Quiet再生モード」の指示に従って、マシン上でQuiet配置を行います。

注意：これらのコマンドラインオプションは、ホットフィックスのQuietインストールには使用できません。ホットフィックスのQuietインストールには、ホットフィックスランチャースクリプト、および適切なコマンドラインオプションを使用してください。これらについては、「付録C」を参照してください。

記録と再生

記録と再生は、ダイアログへの応答をファイルに保存した後でそれを使用する、SAS Deployment Managerの機能です。SAS Deployment Managerは、記録と再生に3つのモードを提供します。下記では、各モードについて解説しています。

再生を行う際、SAS Deployment Wizardは、記録モードを使用した時と同じ構成レベルにする必要があります。応答ファイルの手動による修正は、SASの構成の経験を持つユーザーによって、またはSASコンサルタントやテクニカルサポートの助言の元、細心の注意を払って行う必要があります。

記録モード (Record Mode)

注意：作成された応答ファイルは、プレーンまたは暗号化されたパスワードを含んでいる場合があります。他の重要な情報を含むファイルと同様に、応答ファイルを安全な場所で管理してください。

SAS Deployment Managerを記録モードで実行すると、SAS Deployment Managerを実行したときに表示される各ページの値を含む応答ファイルを作成します。このモードによる応答ファイルを作成する際、SAS Deployment Managerは最後まで実行しなければなりません。

使用方法：

```
-record
```

応答ファイルは、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリに作成されます。ファイル名はsdwresponse.propertiesになります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって、指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

注意：ファイルの保存場所として、既存のファイルがある場所を指定した場合、既存のファイルはSAS Deployment Managerによって上書きされます。

例：

```
sasdm.exe -record -responsefile "C:\%sdwresponse.properties"
```

デフォルトでは、記録モードを実行した場合、配置は行われません。記録中に配置を行うには、引数に `-deploy` を指定します。

注意：「記録」および「再生」を使用する際にその他のコマンドラインオプションを指定しても、それらのオプションは応答ファイルに含まれません。適切に応答ファイルを使用するには、「再生」でそれら同じコマンドラインオプションを再度指定しなければなりません。

Quiet再生モード (Quiet Playback Mode)

このモードで実行すると、SAS Deployment Managerのユーザーインターフェイスが表示されません。このモードで実行するには、応答ファイルが必要です。応答ファイル中に有効な応答のないダイアログが存在する場合、ログファイルにメッセージが記録され、SAS Deployment Managerはエラーコード -1 を返します。このモードによるSAS Deployment Managerの実行中は、視覚的なフィードバックはありません。配置後、ログファイルを参照し、エラーの有無を確認することを推奨します。

ログファイルの置き場所は、「SAS Deployment Wizardのログファイル」で解説しています。

注意：このコマンドラインオプションは、ホットフィックスのQuietインストールには使用できません。ホットフィックスのQuietインストールには、ホットフィックスランチャースクリプト、および適切なコマンドラインオプションを使用してください。これらについては、「付録C」を参照してください

使用方法：

```
-quiet
```

応答ファイルは、前もって作成されていなければなりません。作成場所は、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリで、ファイル名は `sdwresponse.properties` になります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
sasdm.exe -quiet -responsefile "C:\%Program Files%\SASHome\%sdwresponse.properties"
```

Windowsにおける注意点

Windowsのユーザーは、さらに `-wait` オプションも指定できます。 `-wait` オプションを指定すると、SAS Deployment Managerが完了するまで、タスクマネージャのプロセスリストに `sasdm.exe` プロセスが表示され続けます。下記に、 `-wait` オプションを指定した例を示します。

```
sasdm.exe -wait -quiet -responsefile "C:\Program Files\SASHome\sdwresponse.properties"
```

パーシャルプロンプト (Partial Prompting)

SAS Deployment Managerをパーシャルプロンプトモードで実行すると、応答ファイルに有効な値がないダイアログのみ表示されます。このモードは、再起動による中断後、SAS Deployment Managerが再開し、初めに設定された値がもはや有効でない場合に使用されます。これは、マップされたドライバが、Windowsの再起動後に見つからない場合に生じます。また、このモードは、管理者が一部の配置情報をユーザーに提供する場合に使用することができます。

使用方法：

```
sasdm.exe -partialprompt
```

応答ファイルは、前もって作成されていなければなりません。作成場所は、デフォルトではすべてのプラットフォームにおいてユーザーホームディレクトリで、ファイル名はsdwresponse.propertiesになります。

応答ファイルの場所は、コマンドに引数を追加することによって指定できます。

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
sasdm.exe -partialprompt -responsefile "C:\Program Files\SASHome\sdwresponse.properties"
```

Quiet再生モード中のSAS Deployment Managerの監視

QuietモードにおけるSAS Deployment Managerの実行では、配置の監視や、エラーに気付くのがより困難です。この問題に対処するには、Windowsではタスクマネージャを使用し、UNIXでは定期的にpsコマンドを発行して、SAS Deployment Managerが動作しているかどうかを追跡します。

Windowsでは、Windowsのタスクマネージャのプロセスのリストにsasdm.exeが表示され続けるように、QuietモードでSAS Deployment Managerの起動の際に、-waitオプションを指定します。

たとえば、次のようになります。

```
sasdm.exe -quiet -wait -responsefile "C:\Program Files\SASHome\sdwresponse.properties"
```

-waitオプションを使用しない場合、java.exeプロセスを監視してください。

注意： ネットワーク管理ソフトウェア (SCCMやTivoliなど) を使用している場合、SAS Deployment ManagerをQuietモードで実行する際に、いつSAS Deployment Managerが実行を終了したのかを判断するため、-waitオプションを必要とするかもしれません。詳細は、該当するネットワーク管理プラットフォームのドキュメントを参照してください。

UNIXでは、ほとんどのプロセスと同様に、Quietモードで実行中のSAS Deployment Managerを監視するにはpsコマンドを発行します。SAS Deployment Managerが実行する実際のスクリプトはその時々によ

て変わるため、psコマンドの出力ではプロセス名は常にsasdm.shではないことを憶えておいてください。しかし、プロセスIDは同じままになります。

対話的再生モード (Interactive Playback Mode)

SAS Deployment Managerのダイアログに対する応答を、すべてデフォルトにするのにも応答ファイルを使用することができます。このモードでは、SAS Deployment Managerのすべてのダイアログが表示され、デフォルト値が応答ファイルからロードされます。

注意：UNIX環境では、ソフトウェアの配置に-responsefileオプションを使用する場合においても、X11のようなウィンドウ環境を用意しておく必要があります。-responsefileコマンドラインオプションを使用しても、グラフィカルユーザーインターフェイスは呼び出されません。

使用方法：

```
-responsefile "<full path to the response file>"
```

例：

```
sasdm.exe -responsefile "C:\Program Files\SASHome\sdwresponse.properties"
```

テキストベースのインターフェイスの使用 (UNIXおよびz/OSのみ)

UNIXまたはz/OSのX11サーバー上で作業することを望まない場合、サーバーの構成にヘッドレスシステムを使用することにより、コンソールモードでSAS Deployment Managerを使用できます。コンソールモードは、ミドル層では使用できません。コンソールモードを使用すると、SASソフトウェアの配置における各ダイアログが、テキストで表示されます。

注意：アングルブラケット (大なり小なり) を含む一連の入力を求められた場合 (たとえば、Enter <q> to quit)、それらの記号も含めて入力しなければなりません。

-consoleコマンドラインオプションは、応答ファイルの記録または再生などの他のオプションと同時に使用することができます。

また -consoleコマンドラインオプションは、SAS Deployment Managerの出力のサイズを指定する2つのオプションをサポートしています。出力を一時停止 (ポーズ) する行数を指定するには、-pagesize #を使用します。また、行の折り返しの文字数を指定するには、-pagewidth #を使用します。-pagesizeと-pagewidthは、他のコマンドオプションと共に使用できません。

使用方法：

```
-console [-pagesize #] [-pagewidth #]
```

例：

UNIX

```
sasdm.sh -console -pagesize 20 -pagewidth 50
```

z/OS

```
sasdm.rexx -console -pagesize 20 -pagewidth 50
```

第8章 付属ツール

SAS Software Depot Check Utility (WindowsおよびUNIXのみ)

SAS Software Depot Check Utility (SASソフトウェアデポチェックユーティリティ) は、SAS 9.3ソフトウェアデポにあるべきファイルの存在を検証します。SAS Software Depot Check Utilityは、以下のタスクを実行して、デポ中のファイルに関する情報を提供します。

- デポ中で確認されたファイルの総数。
- 確認されたファイルのリスト、およびそのディレクトリパス。
- デポ中に見つからなかったファイルのリストとその総数。およびそれら見つからなかったファイルのディレクトリパス。
- 確認されたオーダーのリストと総数。
- 確認されたSASインストールデータファイルのリストと総数。
- 適切でないサイズのファイルのリストと、それらの不正確および正確なサイズ。
- 不正確なチェックサムファイルのリストと、それらの不正確および正確なチェックサム。

SAS Software Depot Check Utilityは、SAS Download Managerによる最初のダウンロード時に作成されたサブセットされたオーダー、およびSAS Deployment Wizardを使用して作成されたサブセットされたオーダー、を含むSAS 9.3のデポの正当性を確認するのに使用することができます。

下記に、SAS Software Depot Check Utilityの出力の例を示します。

```
SAS Software Depot Check Utility version X.X
Thu 12/15/11 8:37:24 AM
USERNAME=someuser

FOUND: C:\SAS Software Depot\sid_files
FOUND: C:\SAS Software Depot\cd.id
FOUND: C:\SAS Software Depot\sassd.txt
FOUND: C:\SAS Software Depot\setup.dat
FOUND: C:\SAS Software Depot\depotsummary.html
FOUND: C:\SAS Software Depot\order_data
FOUND: C:\SAS Software Depot\cd.id
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\deployment.xml
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\en_bin.xml
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\en_bin.zip
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\en_lib.xml
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\en_lib.zip
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\en_misc.xml
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\en_misc.zip
FOUND: C:\SAS Software
Depot\products\acceldb2fmt_93130_dba_en_sp0_1\install.xml
...
*** 13408 Files were checked in C:\SAS Software Depot
```

```

*** 2 Orders were found in this depot:
099GN1
09B4RX

*** 2 SID files were found in C:\$SAS Software Depot\sid_files:
SAS93_099GN1_70068130_Win_X64_Wrkstn_Srv.txt
SAS93_09B4RX_70068128_Win_X64_Wrkstn.txt

*** No files with wrong size were found in this depot.

*** No files with wrong checksums were found in this depot.

```

WindowsにおけるユーザーインターフェイスによるSAS Software Depot Check Utilityの実行

Windowsにおいて、ユーザーインターフェイスを使用してSAS Software Depot Check Utilityを実行する手順を下記に示します。SAS社は、SASソフトウェアデポをダウンロードするのに使用したユーザーIDを、SAS Software Depot Check Utilityの実行に使用することを推奨します。

1. SASソフトウェアデポのutilitiesディレクトリを開きます。
2. SASDepotCheck.exeをダブルクリックしてください（Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008を使用している、SASDepotCheck.exeを右クリックして、[管理者として実行]を選択してください）。
3. SASソフトウェアデポの場所を指定する、[フォルダの参照] ダイアログが表示されます。デポの場所を参照するか、またはテキストボックスに直接入力してください。場所を指定したら、[OK] をクリックします。
4. [Select path and file name for results] ダイアログが表示されたら、レポート結果のファイル名と、それを作成する場所を指定します。ディレクトリを指定し、[ファイル名] テキストボックスにファイル名を入力するか、デフォルトのファイル名を使用します。[保存] をクリックして、処理を継続します。
5. [Verbose?] ダイアログが表示されたら、デポで見つかったすべてのファイルのリストのレポート結果が必要であるかどうかを選択します。[はい] または [いいえ] を選択します。SAS Software Depot Check Utilityが開始されます。
6. 進捗を示すウィンドウが表示されます。そのウィンドウでは、チェックしているファイルのリスト、および進捗の状況を表示します。
7. SAS Software Depot Check Utilityの動作が完了すると、レポート結果が表示されます。

WindowsおよびUNIXにおける手動によるSAS Software Depot Check Utilityの実行

Windows

Windowsにおいて、手動（グラフィカルユーザーインターフェイスを使用しない）でSAS Software Depot Check Utilityを起動するには、DOSプロンプトから以下の構文を使用してSASDepotCheck.exeを実行します。SAS社は、SASソフトウェアデポをダウンロードするのに使用したユーザーIDを、SAS Software Depot Check Utilityの実行に使用することを推奨します。

```
SASDepotCheck.exe -i <SAS Software Depot directory> -o <output file path and name>
-v
```

-vはコマンドラインオプションで、デポで見つかったすべてのファイルのリストを表示するのに使用します。-iおよび-oコマンドラインオプションを指定しない場合、「WindowsにおけるユーザーインターフェイスによるSAS Software Depot Check Utilityの実行」で述べた、各手順のダイアログボックスが表示され、それに応答する必要があります。

UNIX

UNIXにおいて、手動でSAS Software Depot Check Utilityを起動するには、次の構文を使用してsas_depot_check.shを実行します。SAS社は、SASソフトウェアデポをダウンロードするのに使用したユーザーIDを、SAS Software Depot Check Utilityの実行に使用することを推奨します。

```
sas_depot_check.sh -i <SAS Software Depot directory> -o <output file path and name>
-v
```

-vはコマンドラインオプションで、デポで見つかったすべてのファイルのリストを表示するのに使用します。-iおよび-oコマンドラインオプションを指定しなかった場合、再度正しいコマンドラインオプションを指定してスクリプトを実行するための、それらに関するヘルプ情報が表示されます。

View Registry

SAS 9.3において、ホットフィックスのインストールはSAS Deployment Registryに記録されます。レポートユーティリティであるView Registry (sas.tools.viewregistry.jar) は、配置レジストリの処理を行い、レポートファイル (DeploymentRegistry.html) を生成します。配置レジストリのレポートは、ホットフィックスを含む現在のSASHOMEにインストールされているすべてのSAS 9.3ソフトウェアを識別します。たとえば、次のようになります。

```
Host: s64
Product Code: base
Version: 9.3
Display Name: Base SAS
Display Version: 9.3
Hotfix Entry: Hotfix A01002
Hotfix Entry: Hotfix A01012
Hotfix Entry: Hotfix A01021
Hotfix Entry: Hotfix A50001
Hotfix Entry: Hotfix A50005
Hotfix Entry: Hotfix A50016
```

```
Host: s64
Product Code: stat
Version: 9.3
Display Name: SAS/STAT
Display Version: 9.3
```

テキスト形式のレポートであるDeploymentRegistry.txtも作成されます。HTML版およびテキスト版ともに、<SASHOME>/deplymntregディレクトリに作成されます。レポートユーティリティは、SAS 9.3以降ではデフォルトで<SASHOME>/deplymntregにインストールされます。

このユーティリティを使用して、以下の手順で配置レジストリのレポートを生成してください。sas.tools.viewregistry.jarは、<SASHOME>/deplymntregディレクトリから実行されなければならないことに注意してください。

Windows :

sas.tools.viewregistry.jarを起動します（デフォルトでは、C:\Program Files\SASHome\deplymntregにあります）。

UNIX :

JARファイルを実行してください。たとえば、次のようになります。

```
java -jar sas.tools.viewregistry.jar
```

注意： レポートユーティリティ（View Registry）を実行するには、Windowsユーザーの場合、deplymntregディレクトリへの書き込み権限が必要です（デフォルトの場所は、C:\Program Files\SASHome\deplymntreg）。作成されたレポートは、この場所へ出力されます。UNIXユーザーの場合、SAS HOMEへの書き込み権限が必要です。

SAS File Type Management Tool (Windowsのみ)

SAS File Type Management Toolは、Windows版のユーザーのみ使用できるツールです。このツールは、SASプログラムに関連付けされていた拡張子を維持するためのユーティリティです。このツールを呼び出すには、[スタート] から、[SAS] → [Utilities] → [SASファイルタイプの管理] を選択します。64-bit版Windowsを使用している場合、「SASファイルタイプの管理」に続いて「64-bit」と記載されています。Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008を使用している場合、右クリックして「管理者として実行」を選択する必要があります。

ダイアログの上のコンボボックスにおいて、ファイルの関連付けを行いたいSASプロダクトを選択します。プロダクトを選択すると、そのプロダクトに関連付けられるファイルの種類のリストが、下のウィンドウに表示されます。選択したSASプロダクトに関連付けたいファイル拡張子を選択します。すべての拡張子を選択するには、[すべて選択] を使用します。すべて非選択の状態にするには、[すべて選択解除] を使用します。選択したSASプロダクトに関連付けるのに、個別のファイル拡張子を選択することもできます。選択されなかったファイル拡張子は、既存のファイル拡張子の割り当てが保持されます。

さまざまなSASプロダクトのファイル拡張子の関連付けが終了したら、[OK] をクリックして関連付けを保存するか、[キャンセル] をクリックして、SAS File Type Management Toolを起動する前の使用していた状態に戻ります。

SAS Update File Cleanup Utility (WindowsおよびUNIXのみ)

SAS Deployment Wizardが既存の配置をアップデートする場合、そのアップデートを元に戻すのに必要なバックアップファイルを作成します。しかし、アップデートを元に戻す必要がないと判断した場合のために、SAS社はバックアップを削除しディスクの空き容量を増やすユーティリティを提供しています。

下記の手順は、SAS Update File Cleanup Utilityの起動および使用方法について解説しています。SAS Update File Cleanup Utilityは、WindowsおよびUNIX環境においてのみ使用できます

1. アップデートのインストールにおいて、SAS Update File Cleanup Utilityは<SASHOME>\InstallMiscにインストールされます。Windows環境の場合、その場所にあるcleanup.exeをダブルクリックしてください。UNIX環境では、cleanup.shを実行します。
2. SAS Update File Cleanup Utilityが起動し、クリーンアップするSASHOMEを表示します。このユーティリティは、自身がインストールされているSASHOMEに対してのみ使用できます。異なるマシンのSASHOMEをクリーンアップする場合、アップデートが適用された各マシン上のSAS Update File Cleanup Utilityを使用しなければなりません。
3. ユーティリティによって削除されたファイルは、元に戻すことができないことに注意してください。削除しても問題がないことが確認できたら、[Remove Backup Files] をクリックして処理を始めてください。[Results] にユーティリティがスキャンしている場所、削除しているファイル、作成された空き容量が表示されます。
4. 処理が終了したら、[Close] をクリックしてユーティリティを終了してください。

付録A Windowsの管理

ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSASのインストールの準備

ターミナルサービスで、SAS 9.3をサーバーに適切にインストールする準備として、以下の点を確認しなければなりません。

1. SAS 9.3をインストールするターミナルサーバーに、管理者としてログオンします。
2. Windowsターミナルサーバーにアプリケーションをインストールするには、インストールモードであることが必要です。システムをインストールモードにするのに、2つの方法があります。
 - コントロールパネルの[プログラムの追加と削除]から、[プログラムの追加]を選択します。ユーザーオプションを変更するように求められます。すべてのユーザーが共通のアプリケーション設定で開始できるようにオプションを選択したことを確認します。
 - コマンドプロンプト (cmd.exe) で、「change user /install」と入力します。インストールモードが正しく設定されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。
3. ターミナルサーバー上のSAS 9.3のインストールでは、マシンの再起動が必要になります。ユーザーの中断を最小限にするため、インストールする前にターミナルサーバーのすべてのユーザーをログオフさせてください。リモートターミナルセッションでSASソフトウェアをターミナルサーバーにインストールすることができます。しかし、再起動の可能性のため推奨できません。

このインストールを続ける前に、アンチウイルスソフトウェアまたはファイアウォールソフトウェアを停止させることを推奨します。この種類のソフトウェアを実行した状態では、アンチウイルスソフトウェアまたはファイアウォールソフトウェアの構成によってはアプリケーションを正しくインストールする障害となるため、何回ものSASソフトウェアの再インストールが必要になる可能性があります。アンチウイルスソフトウェアまたはファイアウォールソフトウェアを停止させることが困難な場合、そのシステム構成においてSASインストール担当者の権限でソフトウェアをインストールおよびレジストリを更新できることを確認してください。アンチウイルスソフトウェアおよびファイアウォールソフトウェアを終了することが許可されず、かつSASのインストールが失敗する場合、システム管理者に問い合わせてください。

再起動が要求された場合、再起動後にターミナルサーバーへの接続を再度確立しなければなりません。さらに、サーバーをインストールモードに戻す必要があります。ターミナルサーバーセッションへのログオン後、セットアップが再開され、引き続きインストールが行われます。セットアップが再開しない場合、セットアップを起動すると再起動前に状態から再開されます。

ターミナルサーバー環境またはCitrixにおけるSAS 9.3のインストール

ターミナルサービスでSAS 9.3をサーバーにインストールするのは、SAS 9.3を他のサーバーにインストールするのと同じです。

付録B UNIXの管理

以下に、各UNIX環境におけるmountコマンドの例を示します。下記のデバイス名は、適宜実際のデバイス名に置き換えてください。これらの例では、マウントポイントは/mnt/dvdromを指定していますが、任意の場所を指定してもかまいません。

注意：ハードウェアの構成には多くの種類があるので、下記には一般的なmountコマンドの例を示しています。使用している環境における適切なmountコマンドは、システム管理者に問い合わせてください。

AIX

```
# mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /mnt/dvdrom
```

HP-UX、HP-UX (Itanium)

```
# mount -F cdfs -o rr,ro /dev/dsk/c0t0d0 /mnt/dvdrom
```

Linux (Intel) 、Linux x64

```
# mount -r /dev/dvd /mnt/dvdrom
```

Solaris、Solaris x64版

```
# mount -r -F hsfs /dev/dvd /mnt/dvdrom
```

リモートマウント

DVDドライブがほかのマシン上にあり適切にエクスポートされている場合、下記のようなコマンドを発行して、NFSでDVDをマウントしてください。

```
# mount -o ro <remotehost>:/<dvd-rom-dir> /mnt/dvdrom
```

この例では、<remotehost>はDVDドライブのあるマシン、<dvd-rom-dir>はサーバー上のDVDドライブの実際のマウントポイントを示しています。

一度DVDをマウントすると、次のコマンドで実行ファイルを実行できます。

```
$ /mnt/dvdrom/<executable>
```

注意：オートマウント機能を使用している場合、DVDドライブにメディアを挿入すると、通常ファイルマネージャのウィンドウが起動します。この際、実行ファイルをファイルマネージャのウィンドウから起動しないようにしてください。これを行うと、「デバイスビジー (Device busy)」の状態が発生し、後のインストール工程においてディスクスワップができなくなります。

付録C 以前のバージョンのSAS Deployment Wizardでホットフィックスを適用する

SAS 9.3の2回目のメンテナンスのリリースにおいて(Software Orderメールに、リビジョン(Rev.)が「12w35」と記載されています)、SAS Deployment Wizardとホットフィックスのプロセスは、第4章で解説しているとおりに変更されました。しかし、2回目のメンテナンスより前のリリースにおけるSAS Deployment Wizardを使用している場合、ホットフィックスのプロセスは下記で解説しているとおりになります。

WindowsおよびUNIXにおけるホットフィックスの適用

ダウンロードしたホットフィックスをSASソフトウェアに適用するには、下記の方法を使用してください。ホットフィックスのQuietインストールを行う場合は、ホットフィックスランチャースクリプト、および適切なコマンドラインオプションを使用してください。

作業を始める前に、SASサービスおよびプロセスを停止していることを確認してください。さらに、使用している配置に変更を行うので、ホットフィックスを適用する前に、バックアップを作成してください。

1. SAS Deployment Managerを起動すると、[言語の選択] ページが表示されます。ダウンロードしたソフトウェアの構成に使用する言語を選択します。[OK] をクリックします。
2. [SAS Deployment Managerタスクの選択] ページが表示されます。[管理タスク] から、[ホットフィックスの適用] を選択します。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
3. [ホットフィックスの適用] ページが表示されます。ダウンロードしたホットフィックスパッケージの場所を、テキストボックスに入力するか、[参照] を使用して指定します。その場所をテキストボックスに入力したら、[次へ] をクリックします。
4. SAS Deployment Managerがホットフィックスを適用していることを示すウィンドウが表示されます。ホットフィックスのインストールが完了すると、何が適用されたかを示す[ホットフィックス更新完了] ページが表示されます。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
5. [追加リソース] ページが表示されます。掲載されているリストのリンクは、SASソフトウェアの配置に関する重要なドキュメントにリンクしています。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

ホットフィックスの適用完了後、それらのコピーが下記の場所に置かれます。

```
<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/Installed
```

何かしらの新しいホットフィックスを同じ場所に置く場合、元からあるホットフィックスは適用済みなので削除したいと考えるかもしれません。古いホットフィックスは、同じマシンに再度適用されることはありません。しかし、ユーザーインターフェイス上やログファイルにおいて見にくくなる原因になるかもしれません。

ホットフィックスランチャースクリプトの使用

SAS Deployment Managerからのホットフィックスのインストールに加えて、ランチャースクリプトを使用してホットフィックスをインストールすることができます。この方法は、特に、サイレント（無人）インストールや企業全体に及ぶシステムに対して適用する場合に便利です。

作業を始める前に、SASサービスおよびプロセスを停止していることを確認してください。さらに、使用している配置に変更を行うので、ホットフィックスを適用する前に、バックアップを作成してください。

ランチャースクリプトの使用の手順は、下記のとおりです。

1. SAS Deployment Managerの実行ファイルのあるディレクトリを探します。実行ファイル名は、sasdm.exe（Windows）またはsasdm.sh（UNIX）です。デフォルトでは、その場所は、<SASHOME>/SASDeploymentManager/9.3になります。
2. 同じディレクトリにあるランチャースクリプトを実行します。ファイル名は、sashf.exe（Windows）またはsashf.sh（UNIX）です。

注意：ホットフィックスがデフォルトの場所がない場合、ホットフィックスランチャースクリプトは、- hotfixdirオプションなしでは起動しません。下記の例を参照してください。

3. [ホットフィックスの適用] ページが表示されます。ダウンロードしたホットフィックスパッケージの場所を、テキストボックスに入力するか、[参照] を使用して指定します。その場所をテキストボックスに入力したら、[次へ] をクリックします。
4. SAS Deployment Managerがホットフィックスを適用していることを示すウィンドウが表示されます。ホットフィックスのインストールが完了すると、何が適用されたかを示す [ホットフィックス更新完了] ページが表示されます。[次へ] をクリックして、処理を続けます。
5. [追加リソース] ページが表示されます。掲載されているリストのリンクは、SASソフトウェアの配置に関する重要なドキュメントにリンクしています。[完了] をクリックし、SAS Deployment Managerを終了します。

ホットフィックスの適用完了後、それらのコピーが下記の場所に置かれます。

```
<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/Installed
```

何かしらの新しいホットフィックスを同じ場所に置く場合、元からあるホットフィックスは適用済みなので削除したいと考えるかもしれません。古いホットフィックスは、同じマシンに再度適用されることはありません。しかし、ユーザーインターフェイス上やログファイルにおいて見にくくなる原因になるかもしれません。

ランチャースクリプトのコマンドラインオプション

ホットフィックスランチャースクリプトで使用する、いくつかのコマンドラインオプションがあります。下記で説明していることを、SAS Deployment Managerで行なわないでください。SAS Deployment Managerで使用するコマンドラインオプションについては、第4章を参照してください。

下記のコマンドラインオプションを、ランチャースクリプトで使用できます。

```
- silent
```

ホットフィックスのインストール（上記の手順3から5）をこのモードで実行し、ユーザーインターフェイスを表示しません。このオプションは、特に、企業全体に及ぶ配置を行う場合に便利です。ホットフィックスが、デフォルトの場所（<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/New）ではなく他の場所に格納している場合、下記に説明する - hotfixdir オプションを使用して、ホットフィックスの場所を指定する必要があります。

例：

```
sashf.exe - silent
- hotfixdir
```

デフォルトでは、ランチャースクリプトは、ホットフィックスが<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/Newにあるものとして探します。- hotfixdir オプションは、ホットフィックスのデフォルトの場所として、異なるディレクトリを指定できます。- hotfixdir オプションの引数には、適用するホットフィックスのディレクトリパスを指定しなければなりません。

例：

```
sashf.exe - silent - hotfixdir "C:¥Downloads¥HotFix"
- skipusercheck
```

ホットフィックスのインストーラは、ホットフィックスを適用するユーザーIDが、最初の配置を行ったユーザーIDと同じであることを確認します。- skipusercheck コマンドラインオプションは、他のユーザーIDがこの作業を行えるように、ホットフィックスのインストーラがこの確認作業をスキップするようにします。そのログインユーザーが、配置を行ったユーザーと同じ権限を持つ必要があることに注意してください。そうでない場合、権限の問題が発生します。しかし、権限が適切に設定されている場合、他のユーザーIDでインストールされたファイルをアップデートできます。

UNIXでは、SASツリー全体のオーナーが、インストールに使用する新しいIDに変更されなければならないことに注意してください。それには、次のコマンドを発行します。

```
chown - Rh <new_userid>:<group> <SASHOME>
```

例：

```
sashf.exe - skipusercheck
```

z/OSにおけるホットフィックスの適用

重要な注意事項

1. ホットフィックスを適用する前に、現在実行中のすべてのSASセッション、デーモン、スポーナ、サーバーを終了させておかなければなりません。
2. ホットフィックスのインストーラのグラフィカルユーザーインターフェイスには、X11サーバーが必要です。X11サーバーが利用できない場合、サイレントインストールが利用できます（後述）。
3. ホットフィックスは、プロダクションのライブラリにプロモートされる新しいデータセットにインストールされます。このプロセスで、いくつかの新しいデータセットが作成されます。

インストール手順

以下に、UNIXシステムサービス（USS）からホットフィックスをインストールする手順について説明します。

手順1：SASHOMEを探してSAS Deployment Registryをバックアップする

ホットフィックスをインストールする前に、`deploymntreg`ディレクトリをバックアップすることをSAS社は推奨します。この作業を行うには、SASHOMEに移動し、次のコマンドを発行します。

```
cp -rf deploymntreg <backup_file_name>
```

手順2：ホットフィックスの起動

ホットフィックスは、ランチャースクリプトを使用してインストールできます。この方法は、特にコマンドラインからインストールする場合に有用です。

ランチャースクリプト（`sashf.rexx`）のデフォルトのディレクトリは、`<SASHOME>/SASDeploymentManager/9.3`になります。64-bitホットフィックスをインストールする場合、`sashf.rexx`に、`-z64`コマンドラインオプションを付けなければなりません。

例：

```
sashf.rexx -z64
```

注意：ホットフィックスが上記で述べているデフォルトの場所がない場合、インストールするホットフィックスの場所を、下記で説明する `-hotfixdir` オプションを使用して指定しなければなりません。

ランチャースクリプトのコマンドラインオプション

下記のコマンドラインオプションを、ランチャースクリプトで使用できます。

```
- silent
- headless
```

デフォルトでは、ホットフィックスのインストールにはX11サーバーが必要です。X11サーバーが利用できない場合、上記のオプションを使用しなければなりません。

例：

```
sashf.rexx -silent -headless
- hotfixdir
```

デフォルトでは、ランチャースクリプトは、ホットフィックスが `<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/New` にあるものとして探します。`-hotfixdir` オプションは、ホットフィックスのデフォルトの場所として、異なるディレクトリを指定できます。`-hotfixdir` オプションの引数には、適用するホットフィックスのディレクトリパスを指定しなければなりません。

例：

```
sashf.rexx -silent -hotfixdir /u/userid/hotfix
```

注意： z/OS上に複数のホットフィックスをインストールする場合、すべてのホットフィックスが、ホットフィックス名の最初の英数字値による名前のステージングホットフィックスライブラリにインス

トールされます。たとえば、名前がA01およびB06である2つのホットフィックスがある場合、ステージング名はA01になり、このイメージの中にA01およびB06の内容が含まれます。

- nojobsubmit

-nojobsubmitコマンドラインオプションを使用すると、ホットフィックスのインストーラは、ホットフィックスのアプリケーションを完了するのに、バッチジョブをサブミットしません。代わりに、ユーザー自身でバッチジョブを編集およびサブミットできます。下記に、- nojobsubmitコマンドラインオプションを使用する場合のいくつかの理由を示します。

- サイトでJES3（JES2ではなく）を使用している。
- FTPサーバーが、JESINTERFACELEVEL=2で構成されている。
- SASのインストーラIDが、FTPの使用する場合は認証されない。
- JCLにサイト固有の修正を行う必要がある、またはサブミットする前にJCLを調べることを希望している。
- ジョブ名が、インストールを行うユーザーIDに1つの文字または数字の接尾辞が付けられたものになるFTP JESインターフェイスの必要条件が、サイトのジョブ名の条件と合致しない。

これらの条件のいずれかにサイトが該当する場合、- nojobsubmitコマンドラインオプションを使用しなければなりません。

- nojobsubmitオプションを使用する場合、実行するホットフィックスジョブのリストは、<high-level-qualifier>.< hotfix id>.INSTALL.CNTLのJOBINDEXメンバーに記述されます。リストの最初のジョブをサブミットすると、HOTFIXnジョブの全体が自動的に実行されます（各ジョブが次のジョブをサブミットします）。

注意：ホットフィックスCNTLライブラリを、ジョブのサブミット後に編集（Edit）モードで開くことはできません。いくつかのホットフィックスジョブは、アップデートにおいてそのCNTLライブラリに対して排他的アクセスを必要とします。

PROMOTEジョブは、この一連の一部として実行されません。このジョブは、ステージングデータセットがプロダクションに移動する準備が整うまでサブミットされるべきではありません。

例：

```
sashf.rexx - nojobsubmit
```

最初のSAS 9.3標準（Basic）インストールをカートリッジから行っている場合、方法BまたはDを使用してホットフィックスを起動しなければなりません。「Usage Note 43707」を参照してください。

- skipusercheck

ホットフィックスのインストーラは、ホットフィックスを適用するユーザーIDが、最初の配置を行ったユーザーIDと同じであることを確認します。- skipusercheckコマンドラインオプションは、他のユーザーIDでこの作業を行えるように、ホットフィックスのインストーラがこの確認作業をスキップするようにします。そのログインユーザーが、配置を行ったユーザーと同じ権限を持つ必要があることに注意してください。そうでない場合、権限の問題が発生します。しかし、権限が適切に設定されている場合、他のユーザーIDでインストールされたファイルをアップデートできます。

z/OSでは、UNIXシステムサービスを使用している場合、SASツリー全体のオーナーも、インストールに使用する新しいIDに変更されなければならないことに注意してください。それには、次のコマンドを発行します。

```
chown -Rh <new_userid>:<group> <SASHOME>
```

ホットフィックスをインストールするユーザーIDは、既存のインストールと同じ第1レベル修飾子で新しいデータセットを作成し、既存のデータセットを変更する権限がなければなりません。また、-nojbsubmit コマンドラインオプション（上記で説明済）を使用しない場合、ホットフィックスインストーラは、install.propertiesファイルに格納されているデータ（JOBカードおよびユーザーID）に基づき、元のインストーラIDでインストールジョブを自動的に実行します。

例：

```
sashf.rexx - skipusercheck
```

ランチャースクリプトの実行

ホットフィックスのスクリプトを起動する方法は4種類あります。使用しているサイト環境に適切な方法を選択して、ホットフィックスを適用してください。

方法A) ラインモードでインストールジョブを自動的にサブミット。

ホットフィックスランチャースクリプトを、-silentおよび-headlessオプションを付けて起動します。このホットフィックスインストールジョブの実行は、自動的にサブミットされます。

```
./sashf.rexx -silent -headless
```

方法B) ラインモードでインストールジョブを手動でサブミット。

ホットフィックスのインストールを-headlessオプションのモードで起動し、ホットフィックスジョブのサブミットを手動で行います。

```
./sashf.rexx -silent -headless -nojbsubmit
```

方法C) グラフィカルユーザーインターフェイス（GUI）モードでインストールジョブを自動的にサブミット。

ホットフィックスのインストーラを起動します。このホットフィックスジョブの実行は、自動的にサブミットされます。

この方法は、X11サーバーの使用が必要条件になります。インストールウィザードが起動され、ホットフィックスのインストールプロセスの手順を表示します。

DISPLAY環境変数を設定してください。

```
export DISPLAY=<your_node_name>:0
```

ホットフィックスランチャースクリプトを使用するには、次のコマンドを発行してください。

```
./sashf.rexx
```

方法D) グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) モードでインストールジョブを手動でサブミット。

ホットフィックスのインストールを起動し、ホットフィックスジョブのサブミットを手動で行います。

この方法は、X11サーバーの使用が必要条件になります。インストールウィザードが起動され、ホットフィックスのインストールプロセスの手順を表示します。

DISPLAY環境変数を設定してください。

```
export DISPLAY=<your_node_name>:0
```

ホットフィックスパッケージを実行するには、次のコマンドを発行してください。

```
./sashf.rexxに-nojobsubmitを付けて発行します。
```

ホットフィックスのインストールログは、以下の場所に作成されます。

```
<!SASHOME>/InstallMisc/InstallLogs/IT_date-and-time-stamp.log
```

たとえば、次のようになります。

```
/sas93/InstallMisc/InstallLogs/IT_2011-07-19-13.54.19.log
```

注意：1つのホットフィックスをインストールする各作業に対して、インストールプロセスに関する詳細な情報が記載された1つの新しいログファイルが作成されます。

手順3：ホットフィックスのテスト

プロダクションにプロモートする前にホットフィックスをテストするには、<high-level-qualifier>.<hot fix number>.PROCLIB、CLIST、REXXでそれぞれ作成されるJCL、CLIST、REXXを使用できます。

これらは、プロダクションのデータセットなる前に、ステージングデータセットを連結します。

手順4：ホットフィックスのプロダクションへのプロモート

<HLQ>.CONFIG、<HLQ>.TKMVSENV、<HLQ>.SASRXCFのバックアップを作成してください。

PROMOTEと名付けられたジョブが、ホットフィックスインストールライブラリに書き込まれます (たとえば、<high-level-qualifier>.<hot fix number>.INSTALLCNTL(PROMOTE))。このジョブは、ステージングデータセットをプロダクションに移動する準備が整ったらサブミットしてください。

注意：このプロモートジョブを実行する前に、Problem Note 45616を参照してください。

<http://support.sas.com/kb/45/616.html>

ホットフィックスのインストールプロセスでは、次のホットフィックスのセットのインストールの前に、一連のホットフィックスがPROMOTEを通じて完了されていなければなりません。

注意：ホットフィックスの適用完了後、それらは次の場所にコピーされます。

<SASHOME>/InstallMisc/HotFixes/Installed 新しいホットフィックスを適用する前に、<SASHOME>/Install Misc/HotFixes/Newから、またはそれらが保存されていた元の場所から、どのようなホットフィックスも手動で削除する必要があります。

PROMOTEジョブが作成した<HLQ>.CONFIG、<HLQ>.TKM/SENV、<HLQ>.SASRXCFを、PROMOTEジョブを実行する前に行なったバックアップコピーで置き換えてください。

適用後の注意事項

ホットフィックスのインストールが&prefix.<hot fix number>.LIBRARYを作成し、それらが、SASHOST、SASXAL、SASXA1モジュールのいずれかを含んでいる場合、および元のCNTLデータセットのBAOPTS1メンバーを使用してDEFAULT OPTIONS TABLEをアセンブルすることによってSASシステムオプションを設定している場合、ホットフィックスの適用後、このテーブルを再アセンブルしなければなりません。このテーブルの再アセンブルを行うには、次の手順を実行します。

1. 元のCNTLデータセットのBAOPTS1メンバーを編集します。
2. 新しい<high-level-qualifier>.LIBRARYを示すように、3つすべてのKINK.EDITステップでSYSLMOD DDを変更します。
3. BAOPTS1を再実行します。

ホットフィックスのインストーラが&prefix.<hot fix number>.LIBRARYを作成し、SASLPAのエントリポイントで実行したら、新しいモジュールがLPAにインストールされているかを確認するには、アンロードされたライブラリの中を参照する必要があります。そうするのなら、それらを新しいモジュールでそれらを置き換え、LPAを再読み込みする必要があります。

『Configuration Guide』では、LPAへのインストールで推奨されるモジュールは、次のようになります。

SASXAL
 SABXSPL
 SABXDML
 SABDS
 SABSCLL
 SABDBGM
 SABZPLH
 SABXGPH

BNDLSUFFIXオプションを使用する場合、LPAで適切にモジュールの改名をしなければならないことに注意してください。LPA関連の構成およびBNDLSUFFIXオプションの使用の詳細な情報は、『Configuration Guide for SAS 9.3 Foundation for z/OS』の「Installing SAS 9.3 Foundation into the LPA/ELPA」を参照してください。



support.sas.com

SAS is the world leader in providing software and services that enable customers to transform data from all areas of their business into intelligence. SAS solutions help organizations make better, more informed decisions and maximize customer, supplier, and organizational relationships. For more than 30 years, SAS has been giving customers around the world The Power to Know®. Visit us at **www.sas.com**.

英語版更新日 January 9 2019
SAS 9.3 (TS1M2), Rev. 930_12w50
Pub Code: 64204

SAS[®] Deployment Wizard 9.3、SAS[®] Deployment Manager 9.3 ユーザーガイド

2019年1月25日 第1版第24刷発行 (93W11)
発行元 SAS Institute Japan株式会社
〒106-6111 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー11階

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

TEL: 03(6434)3680 FAX: 03(6434)3681